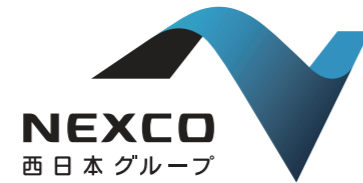


Communication Report 2018

NEXCO西日本グループ
 コミュニケーションレポート

要約版

みち、ひと…未来へ。



ブランドネーム：NEXCO(ネクスコ)西日本

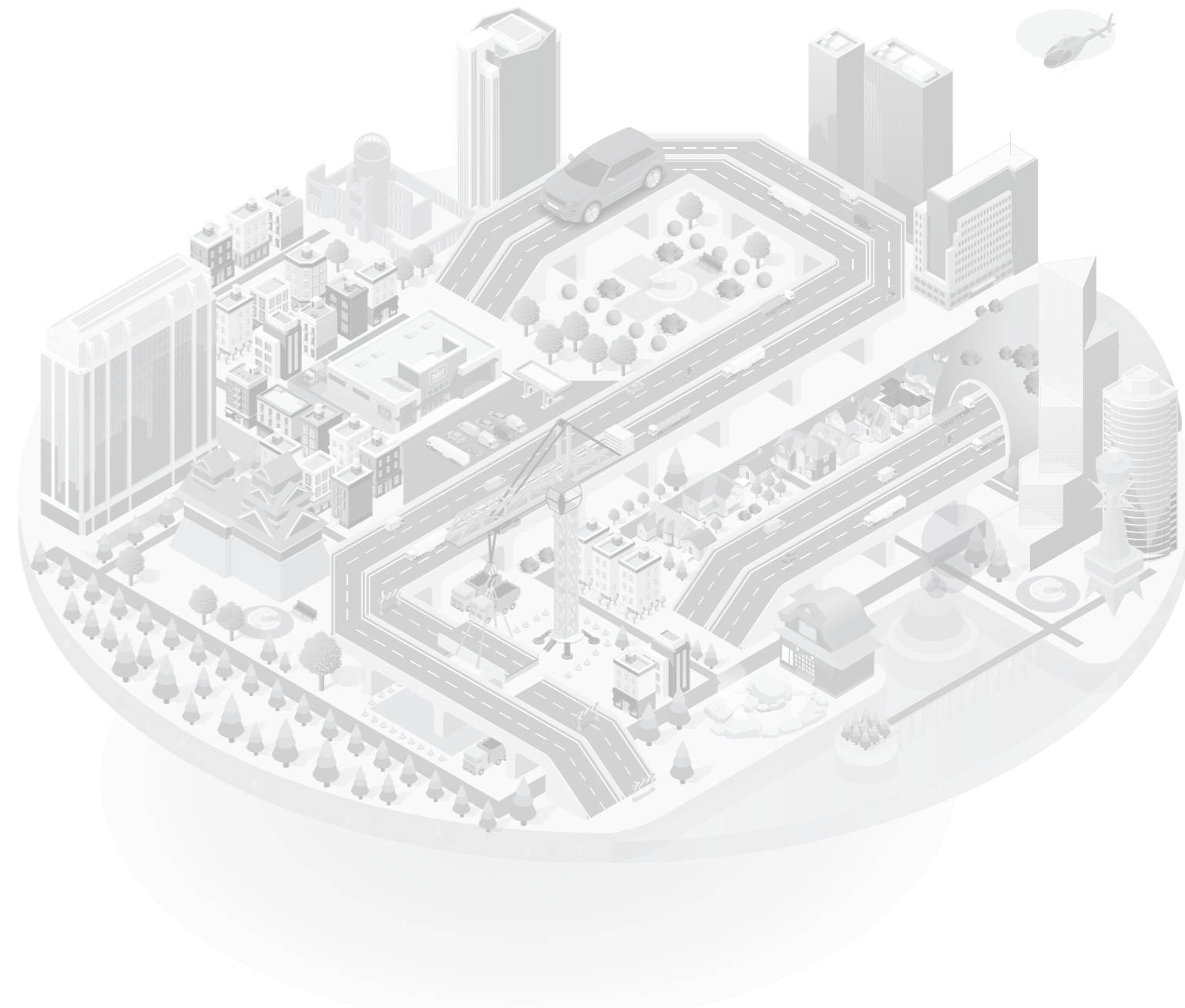
会社の英語表記「West **N**ippon **E**xpressway **C**ompany Limited」の頭文字の一部からとりました。このブランドネームは、同時に、私たちの姿勢や熱意を示した「みち」とともに、「みち」の先へーを表す「Next (次なる)」と、「Co (「共に」を表す接頭語)」の2つの語を包含しています。

ロゴマーク

NEXCOの頭文字「N」を3次元的に造形することによって、未来へと続く高速道路のダイナミズムを表すと同時に、「道进行すること」がもたらしてくれる心の躍動感を表しています。また、組み合わせるロゴタイプは、丸みと広がりを持たせたボールド書体によって、ゆとりのある道路空間を表現するとともに、高速移動中でも高い視認性を実現しています。

ブランドカラー「ネクスコ・ブルー」

西日本・南日本の海と空の明るさをイメージした、鮮やかで清澄感のある青色です。



お問い合わせ先

西日本高速道路株式会社 本社 CSR推進課
 TEL (06) 6344-4000 (代表) FAX (06) 6344-7183
 インターネットからのお問い合わせ：
 NEXCO西日本ウェブサイト (<https://www.w-nexco.co.jp>) から、[お問い合わせ] ページへアクセスできます。



[スローガン]

みち、ひと…未来へ。

安全・安心・快適な高速道路が結び、人と人、地域と地域。夢ひろがるアイデアと、心のこもったサービスで新しい出会いや喜びを生み出します。NEXCO西日本は、100年先の未来に向け技術の革新と新たな価値の創造に挑み続けます。

[3つの目指す姿]

● 高速道路に変わらぬ安全と、これまでにない感動を

● 地域を愛し、地域とともに生きる

● たゆまぬ技術の革新で、100年先の未来へ

目次

NEXCO西日本グループの使命…………… 1
 トップメッセージ …………… 3
 事業エリア・会社概要・グループ会社 …… 5
 NEXCO西日本グループの事業…………… 7
 数字で見るNEXCO西日本グループ・
 中期経営計画2020 …………… 9
 コーポレート・ガバナンス …………… 11
 特集1 高速道路ネットワークの機能強化…13
 特集2 高速道路の長期保全 ……………17
 特集3 高速道路の新技術 ……………21
 特集4 お客さまサービス向上……………23
 お客さま……………25
 社会……………29
 投資家・国民の皆さま……………35
 お取引先……………36
 グループ社員……………37
 環境保全……………39
 社会貢献……………41
 CSRの重要課題と取り組み状況……………43
 財務報告……………47
 第三者意見……………49
 編集方針・Q&A……………50

使用する略称

本レポートでは、「NEXCO西日本」「当社」は西日本高速道路株式会社を、「NEXCO西日本グループ」「当社グループ」は西日本高速道路株式会社とその子会社および関連会社を含めたグループ全体を表します。
 また、「高速道路機構」は、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構を表します。インターチェンジは「IC」、ジャンクションは「JCT」、サービスエリアは「SA」、パーキングエリアは「PA」と略記します。

グループ理念

私たちはリスクマネジメントを徹底し、高速道路の安全・安心を最優先に、お客さまの満足度を高め、地域の発展に寄与することにより、社会から信頼され成長する企業グループをめざします。

グループ行動憲章 (抜粋)

1. 法令や社会のルールを遵守し、いかなる場合であっても、決してこれに反する行為は行いません。
2. 自由で活発な創造的企業活動を、公正を旨として行います。
3. 一人ひとりがグループにおける自らの役割と権限を自覚し、その責任を全うするため、全力を尽くします。
4. 企業活動における情報の重要性を踏まえて、情報の入手と活用及び適正な取り扱いを常に心がけて行動します。
5. 5つのステークホルダー(お客さま、社会、投資家及び国民の皆さま、グループの社員、お取引先)の信頼に応えます。

グループのCSR活動方針

事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します

当社グループの最大のCSRは、本業(事業活動)を通じて社会の持続的な発展に貢献することです。具体的には「高速道路の安全・安心の確保と着実な整備」、「SA・PAでのお客さまサービスの提供」であり、それらを着実に実行することにより、社会の発展への貢献、ひいてはグループの成長につながっていくものと考えています。

ステークホルダーへの約束

私たちはCSRを推進させていくにあたっては、ステークホルダーとの対話を通じて当社グループへの期待を的確に把握し、事業活動のプロセスに組み込んでいくことを大切にしています。対話を通じて明らかになった社会的課題を、これまで培ったノウハウや資源を活かして解決していくことで、社会の持続的な発展に貢献していきます。

社会の持続的な発展
NEXCO西日本グループの成長



より広い社会、未来への働きかけ

経営を支える基本姿勢

コンプライアンス／リスクマネジメント／情報セキュリティ



これからも高速道路の安全・安心を最優先に、 社会から信頼され成長する企業グループをめざします。

現在、当社が管理する高速道路は約3,500kmを超えています。その中には、開通から30年を超え、老朽化が進行している道路もあります。そのため当社グループでは、高速道路ネットワークの機能を維持し、将来の世代へ健全な社会資産を残すために、高速道路リニューアルプロジェクトを進めています。また、熊本地震での教訓を踏まえ、

災害に強い道路を目指して高速道路における耐震補強対策を進めています。

日本の東西交通の要衝である近畿圏の高速道路網整備においては、交通混雑解消や自然災害・重大事故等、有事の際のリダンダンシー強化のため新名神高速道路の2023年度全線開通を目指しています。そのうち2018年3月に開通した

高槻JCT・IC～神戸JCT間においては、沿線において工場の立地が進み、新たな雇用が創出されている一方で、並行する名神高速道路や中国自動車道の渋滞が約9割減少するなど、目に見える効果が出てきています。また、当社管内の各道路においても、円滑で快適な走行と交通事故の減少を図るべく四車線化事業を進めています。



高速道路は、我が国の大動脈として生活・経済活動に欠かせない重要インフラであり、当社グループは24時間365日、この高速道路の機能・サービスを間断なく提供する使命を担っています。

その中で、「私たちはリスクマネジメントを徹底し、高速道路の安全・

安心を最優先に、お客さまの満足度を高め、地域の発展に寄与することにより、社会から信頼され成長する企業グループをめざします」というグループ理念のもと、中期経営計画2020を推進しています。

そのために、社員の健康と安全を預かる経営者として社員の健康管理を強く意識し、働きやすい職場づくりを推進するなど、働き方改革にも取り組んでいます。

当社グループは、高速道路という社会インフラとしての使命を果たすことを企業の社会的責任(CSR)として考えています。その一環として、当社は「国連グローバル・コンパクト」の人権・労働・

環境・腐敗防止に関わる10原則を支持しており、2009年からその活動に参加しています。あらゆる事業活動を通じてお客さまや株主の皆さまをはじめ、協力会社や取引先、社員、沿道地域の皆さまなど、さまざまなステークホルダーへの責任を果たすことに努めていきます。皆さまには、本レポートや当社グループの今後の活動に対して、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

2018年7月

西日本高速道路株式会社
代表取締役社長

酒井和広

ゼロ災害を目指し、 工事安全管理体制を更に強化します

2016年に発生した重大事故以降、重大事故リスクを抽出し、事前に安全対策を定める重大事故リスクアセスメントをはじめとした工事安全管理に継続的に取り組んでいますが、2017年度にも重大事故が連続して発生しました。

工事中事故を撲滅するためには、重大事故リスクに着目した重大事故リスクアセスメントの着実な実施とともに、次のような「工事施工会社による工事安全管理」が工事現場で日々実施されることが重要となります。

- 作業員の不安全行動等による労働災害リスクを適切に想定したKY活動
- 計画通りの施工や作業員の不安全行動を監視する現場巡視
- 作業計画の周知や不安全行動を防止する作業員の教育

今年度より、全社的な工事安全レベルの向上を図るため、次の会議体を設置し、工事安全管理体制を強化しました。これにより、発注者による確認や安全啓発活動を通して、工事施工会社の安全意識を高めてまいります。

●「安全対策部会」

現場で発生した工事中事故の報告、重大事故リスクアセスメントの実施状況の確認等を行うことで、事故対策の共有や工事安全管理の確実な実施等を推進させ、現場での工事安全性の向上を図ります。

●「工事安全推進会議」

各現場での取り組みの展開や安全啓発活動、新技術・新工法の検証等を行います。



安全対策部会の様子

これらの取り組みを継続的に実施することで、ゼロ災害を目指し、「安全と品質を確保したうえで、工期内に工事を完成させ、社会に貢献する」という受発注者共通の目標を実現します。

事業エリア (24府県)

高速道路事業

営業中道路 3,513km
 IC 数 IC 385カ所 スマートIC 29カ所
 利用台数 286万台/日(2017年度実績)
 営業収入 7,643億円(2017年度実績)
 建設中道路 (NEXCO西日本が整備する区間) 81km
 建設中道路 (新直轄方式で整備する区間) 85km

SA・PA事業

サービスエリア 100(94)カ所
 パーキングエリア 210(94)カ所
 売上高 1,493億円(2017年度実績)

※上下線各1カ所でカウントしたエリアの数
 ※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

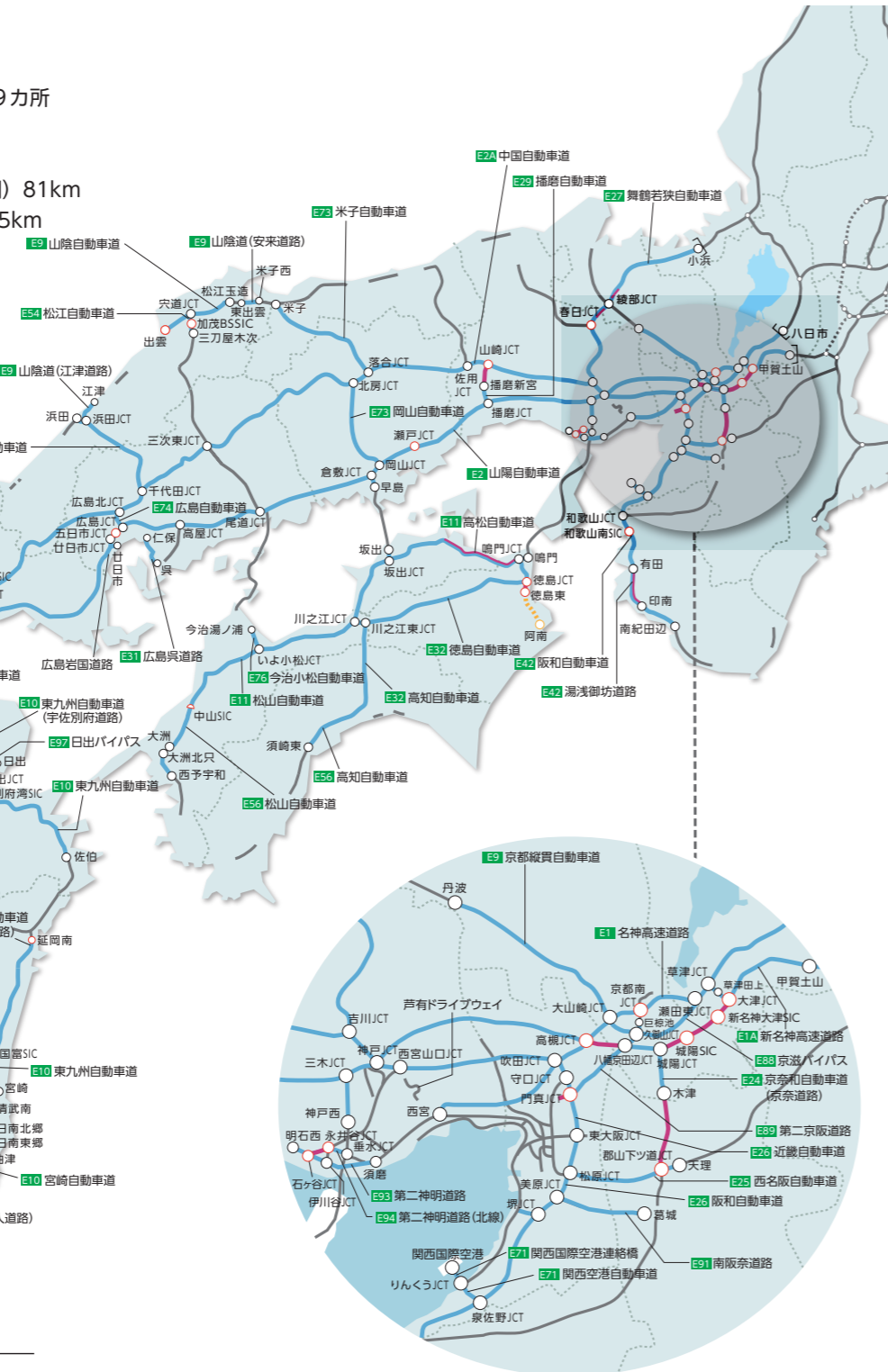
※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数



(2018年7月現在)

〈凡例〉高速道路

- 営業中道路
- 事業中道路^{注1}
- 事業中道路^{注1}(新直轄方式^{注2}で整備する区間)
- 他の自動車専用道路など

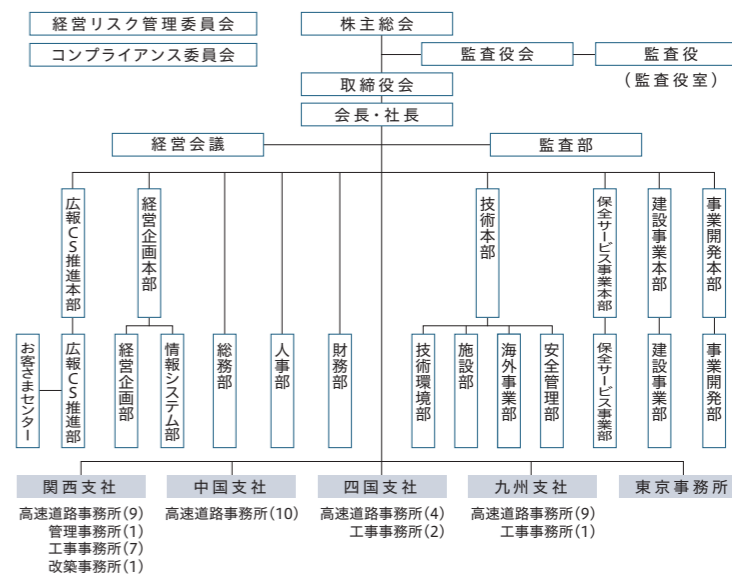
注1 事業中のインターチェンジ等の名称は仮称
 注2 国土交通大臣が施行主体となって高速道路を整備する方式

※標記上の略称
 JCT：ジャンクション
 SA：サービスエリア
 PA：パーキングエリア
 SIC：スマートインターチェンジ

会社概要 (2018年7月現在)

商号 西日本高速道路株式会社
 (West Nippon Expressway Company Limited)
 代表者 代表取締役社長 酒井 和広
 本社所在地 大阪市北区堂島1丁目6番20号
 資本金 475億円
 設立年月日 2005年10月1日
 従業員数[※] (単体) 2,431人 (連結) 14,652人
[※] 2018年3月末現在

組織図 (NEXCO西日本、2018年7月現在)



グループ会社 (2018年7月現在)

連結子会社 26社

- 料金収受
 - 西日本高速道路サービス関西株式会社
 - 西日本高速道路サービス中国株式会社
 - 西日本高速道路サービス四国株式会社
 - (※ 交通管理も実施)
 - 西日本高速道路サービス九州株式会社
 - 西日本高速道路総合サービス沖縄株式会社
 - (※ 交通管理、点検・管理、保全作業も実施)
- 交通管理
 - 西日本高速道路パトロール関西株式会社
 - 西日本高速道路パトロール中国株式会社
 - 西日本高速道路パトロール九州株式会社
- 点検・管理
 - 西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社
 - 西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社
 - 西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社
 - (※ 保全作業も実施)
 - 西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
 - 西日本高速道路ファシリティーズ株式会社
 - (※ 保全作業も実施)
- 保全作業
 - 西日本高速道路メンテナンス関西株式会社
 - 西日本高速道路メンテナンス中国株式会社
 - 西日本高速道路メンテナンス九州株式会社
- 不動産関連業務および人材派遣業務
 - 西日本高速道路ビジネスサポート株式会社
- SA・PAの運営・管理
 - 西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社
 - 西日本高速道路ロジスティクス株式会社
 - 西日本高速道路リテール株式会社
- 有料道路の運営・管理
 - 芦有ドライブウェイ株式会社
- 海外事業
 - NEXCO-West USA, Inc.
- ウルトラファインパブル関連事業
 - 株式会社Ligarc

- 橋梁補修技術の開発および工事・コンサルタント事業
 - 株式会社富士技建
 - NEXCO西日本コンサルタンツ株式会社
- 広告事業
 - NEXCO西日本コミュニケーションズ株式会社

持分法適用の子会社 1社

- SA・PAの運営・管理
 - 沖縄道路サービス株式会社

関連会社 6社

- システムの開発・改良および運用管理
 - 株式会社NEXCOシステムズ
- 研究および技術開発
 - 株式会社高速道路総合技術研究所
- 料金収受機械保守
 - ハイウェイ・ツール・システム株式会社
- 保険代理店業務
 - 株式会社NEXCO保険サービス
- トラックターミナルの運営
 - 九州高速道路ターミナル株式会社
- 海外事業
 - 日本高速道路インターナショナル株式会社

みち、ひと…未来へ。





NEXCO西日本グループの事業

NEXCO西日本グループは、高速道路の建設と安全かつ効率的な運営管理、お客さま満足度の向上を目指すSA・PAの運営管理を主な事業とすると同時に、国民の皆さまの資産である高速道路の価値を最大化するべく、新しい価値の創造に取り組んでいます。

高速道路事業

当社の行う高速道路のプロジェクトでは、道路整備特別措置法(第3条)に基づく事業許可申請を行い、国土交通大臣から事業許可を得たのち、資金を調達し、地元協議、用地取得を行います。その後、沿道地域への工事説明を行い、安全と環境に配慮しながら、コストを削減しつつ工期を短縮し、高速道路の早期開通を目指します。

完成した道路資産は、高速道路機構に譲渡して、以降は高速道路機構との協定に基づき当社が管理・料金収受の業務を行います。お客さまからいただく料金は、高速道路の公共性に鑑み、当社の利潤を含めないことを前提としており、料金収入は高速道路機構への道路の賃借料の支払いおよび管理費用に充てられます。



用地の取得・建設



料金の収受



道路や設備等の維持管理



パトロール

関連事業

SA・PAの運営管理では、レストランやハイウェイショップ等のテナント会社と協力して、くつろぎ、楽しさ、賑わいなどを創出しています。

また、地域と連携した取り組みをSA・PAで実施するなど、お客さまと地域の皆さまに新たな価値を提供しています。

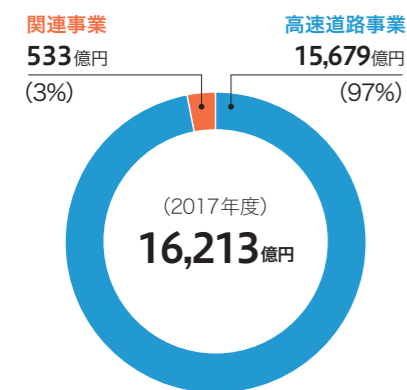


飲食・物販店舗、給油所等の運営

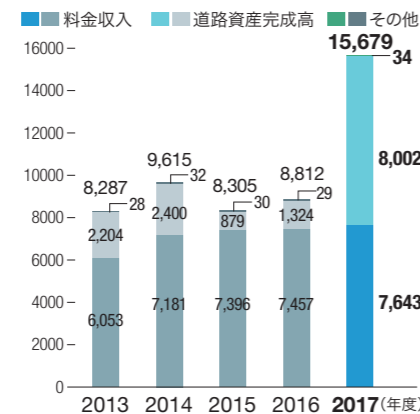


地域と連携した取り組み

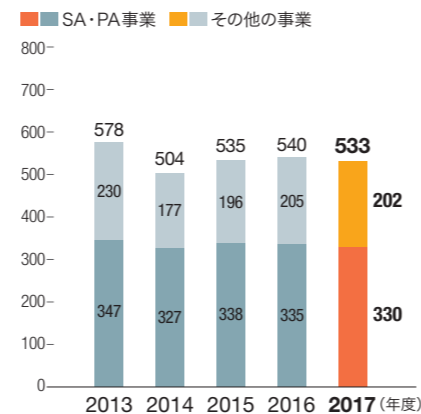
営業収益の事業別内訳 (単位: 億円)



高速道路事業の営業収益 (単位: 億円)



関連事業の営業収益 (単位: 億円)



高速道路事業とNEXCO西日本の役割

高速道路民営化とは

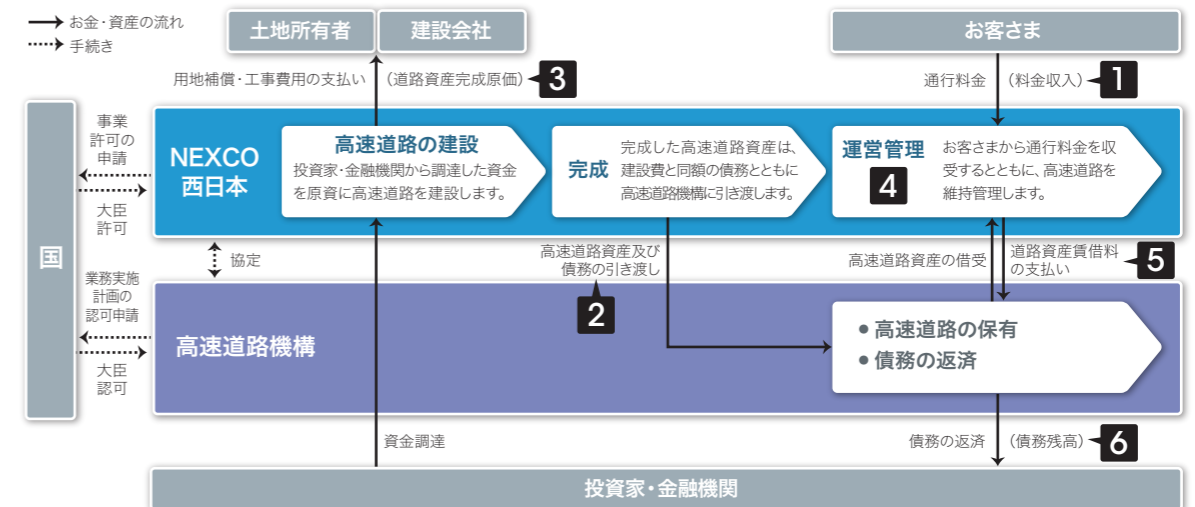
当社は、旧日本道路公団(JH)の分割・民営化により2005年10月1日に設立されました。高速道路資産とその債務は高速道路機構が保有し、当社を含む高速道路会社各社は、高速道路機構から高速道路資産を借り受け、運営管理を担っています。



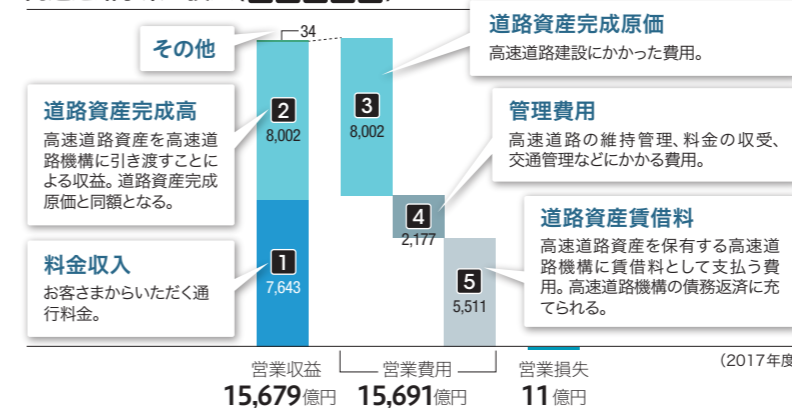
民営化の目的

- 1.旧道路関係4公団合計で、約40兆円にのぼる有利子債務を確実に返済すること。
- 2.必要な道路を、会社の自主性を尊重しつつ、早期に、できるだけ少ない国民負担のもとで建設すること。
- 3.民間企業のノウハウを発揮し、多様で弾力的な料金設定を実現し、お客さまに多様なサービスを提供すること。

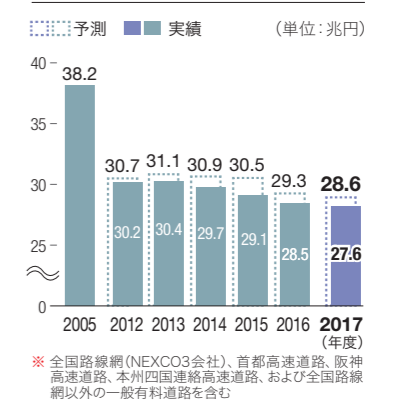
運営スキーム



高速道路事業の損益 (1 2 3 4 5)



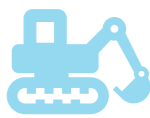
高速道路機構の債務残高※ (6)



数字で見るNEXCO西日本グループ

事業

建設延長



81 km

営業延長



3,513 km

高速道路料金収入

7,643 億円

高速道路利用台数

286 万台/日

SA・PAの数

310 カ所

SA・PA売上高

1,493 億円

環境

太陽光発電による
発電量

286 万kWh

建設副産物

83 万トン

アスファルト塊
コンクリート塊

※発生した建設副産物は100%リサイクルされています。

地域

職場見学、
体験学習、
交通安全啓発活動
の実施

のべ 165 回

ウェルカム
ゲート
設置数

70 カ所

中期経営計画2020

高速道路は我が国の大動脈として生活・経済活動に欠かせない重要インフラであり、NEXCO西日本グループは24時間365日、この高速道路の機能・サービスを間断なく提供する使命を担っています。当社グループはこの使命を全うするため、当社グループ理念(1ページ参照)のもと、2016年度からの5カ年の中期経営計画2020を推進していきます。

策定の背景と基本的な考え方

経営環境の変化



- 老朽化の深刻化
- 大型車、重量超過車両の増加



- 異常気象、災害の頻発化
(東日本大震災、熊本地震、
南海トラフ・内陸直下型地震への懸念)



- 次世代エネルギー普及の促進
- 自動運転の実現



- 地域創生の推進
- 訪日観光客の増加
- 生産性の向上への期待

安全・安心

3つのキーワード

信頼

成長

「安全・安心」の追求が基本

- 社員一人ひとりがリスク感度を高め、高速道路における「安全・安心」という基本のサービスを最優先に、高い品質でお客さまにお届けします。
- 重要な社会基盤である高速道路ネットワークを強化し、健全な状態で次世代へと継承します。
- 24時間365日高速道路の機能を保持するとともに、異常気象や災害・事故に対しても迅速に対応し、間断ない交通の確保に向けた防災対応力を高めます。

「信頼」されるサービスと組織運営を目指す

- NEXCO西日本グループは、社員一人ひとりがコンプライアンスを重視し、社会から信頼され必要とされる組織となるように努めます。
- 地域の魅力や特性と高速道路ネットワーク機能との相乗効果により高速道路の価値最大化を目指すと共に、地域から期待される事業を展開します。

地域と共生し、持続的な「成長」を目指す

- 高速道路ネットワークの価値を最大化する取り組みを継続し、地域と共に100年先の未来まで持続的に成長していきます。
- 高速道路を取り巻く環境の変化に適切に対応し、グループ一体となって進化し続けます。

主な重点施策

① 100年後も安心して
利用できる高速道路



高速道路リニューアルプロジェクトに着手

② 高速道路ネットワークの
機能強化



新名神の建設を推進

③ 工事の安全対策の徹底



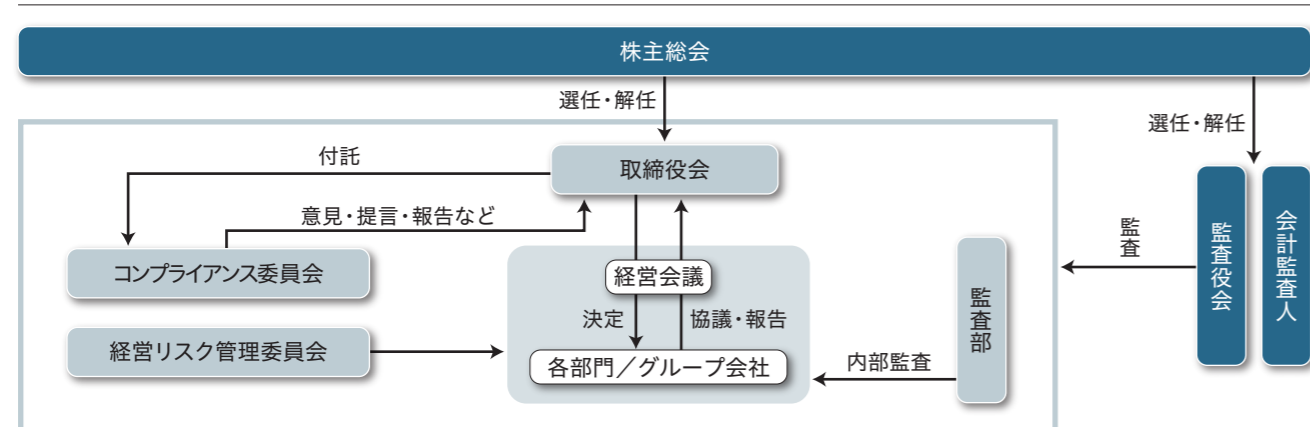
工事中の重大事故の撲滅に向け、
リスクマネジメントを推進

コーポレート・ガバナンス（企業統治）

NEXCO西日本では、当社グループの事業執行における迅速な意思決定、効率的な経営を目指し、ステークホルダーの方々から支持と信頼をいただくために、コーポレート・ガバナンスの充実を図ることが最重要課題のひとつであると認識しています。

そのため、経営の意思決定、業務執行及び監督、さらにはグループガバナンス、情報開示などについて適切な体制を整備し、経営の健全性、効率性及び透明性の確保に努めています。

コーポレート・ガバナンス体制図



コーポレート・ガバナンス

業務の適正を確保するために必要な内部統制システムを整備し、経営の健全性・透明性の確保に努めています

当社では、重要な業務執行に関する事項を決議するための取締役会に加えて、経営に関する重要な事項について協議し情報共有等を行うための経営会議を開催しています。

また、さらなる経営の監督・監査の強化を目的として、社外取締役・社外監査役を選任し、社外における豊富な知識・経験を当社の経営・監査業務に活かすことで、経営の健全性・透明性の確保に努めています。

さらに、法令及び社会のルール

を遵守し、自由で活発な創造的企業活動を公正を旨として行う観点から、コーポレート・ガバナンスを充実させ、業務を適正かつ効率的に遂行するために、コンプライアンス委員会や経営リスク管理委員会などの内部統制システムを整備し、運用状況を定期的に確認することにより、経営の健全性・透明性の確保に努めています。

● **取締役会**：取締役と監査役が出席し、原則月1回開催しています。法令及び定款で定められた事項、その他重要な業務執行に関する事項を決議しています。

● **経営会議**：取締役と監査役、執行役員が出席し、原則月2回開催しています。経営に関する重要な事項等について協議または報告され、社内の情報共有が行われてい

ます。
● **監査役・監査役会**：監査役は取締役会や経営会議などの重要な会議に出席し、取締役の職務執行を監査しています。さらに、監査役会を原則月1回、その他必要に応じて随時開催し、監査実施のために必要な決議などを行っています。

コンプライアンス

社員の労働時間の正確な把握に努めています

働き方改革については国を挙げて取り組まれているところですが、当社では、これまで行ってきた出勤時刻とパソコンのログの比較に加えて、2018年1月からは全事業所で出勤時刻と入退室時間の比較によるチェックを開始する

など、労働時間の正確な把握を徹底しています。こうした取り組みにより、組織としてコンプライアンスの徹底に取り組んでいます。

外部委員を含むコンプライアンス委員会を設置し公正で透明性の高い企業活動を実践しています

グループ行動憲章のもと、外部委員（3名）を含むコンプライアンス委員会を設置し、外部の知見を活用して公正かつ透明性の高い企業活動の実践に努めています。同委員会は原則年2回開催しており、当社グループ全体のコンプライアンスの向上に向けた意見やアドバイス等をいただいています。なお、2017年度は6月、12月の計2回開催しました。

コンプライアンス推進計画の実施・検証・評価に取り組んでいます

当社は、コンプライアンスをすべての事業遂行の基盤として位置づけ、2015年に発生した元社員による取崩事件を受けて、コンプライアンスに関する意識向上や取り組みの活性化を図るため、本社、支社、事務所の各組織にコンプライアンス推進本部（本部長：各組織の長）を設置し、各本部にコンプライアンス推進責任者（総務部長等）を置いています。

同本部では、コンプライアンス推進計画を毎年度策定して、実施・検証・評価等のPDCAサイクルを回すとともに、コンプライアンス委員会等による評価審議を受けることで、コンプライアンスの向上・定着に向けた取り組みの徹底と継続性を担保しています。

経営交流会議を中心にグループ全体でコンプライアンス向上に取り組んでいます

当社グループでは、経営交流会議をはじめとしたグループ全体で実施する各種会議において、コンプライアンスの向上を目指すための議論や情報交換を実施しています。

また、毎年10月をNEXCO西日本グループ企業倫理月間と定め、グループ社員全体のコンプライアンス意識の向上に取り組んでいます。2017年度は、コンプライアンスの重要性について当社社長や各グループ会社役員等から社員に向けてメッセージを発信したほか、コンプライアンスアンケートや外部講師による各種講演会・講習会など、コンプライアンスを着実にグループ社員一人ひとりに浸透させるための取り組みを実施しました。



コンプライアンス講習会の様子

リスクマネジメント

グループ全体でリスクマネジメントに取り組んでいます

各事務所においては、現場業務に関連するリスクの洗い出しなど自主的にリスクマネジメントに取り組む、経営リスク管理委員会においては、グループ全体のリスクの評価・

見直しや、予防措置ならびにリスク発現時の対応状況の検証を行うなど、継続的なリスクマネジメント活動を推進しています。

特に工事の安全管理については、以下の3点を柱とした取り組みを実施し、工事の安全性向上を目指しています。

- 実践的な研修などを通して、社員のリスクに関する予見力等を向上させる
- 受発注者合同でリスクに対して書類及び現場を確認し、予防・是正措置の必要性などを協議
- 現場のパトロールにおいてリスクが懸念される箇所を重点的に点検

情報セキュリティ

情報漏えい・システム障害対策とともに情報セキュリティ意識の向上に取り組んでいます

情報漏えいを「しない」「させない」企業風土と安全なIT環境を確立するため、ソフト面の対策として「個人情報流出させない5か条」を各職場やパソコン画面に掲示し社員の意識向上に努めるとともに、定期的に情報セキュリティeラーニング及び標的型メール攻撃に対する訓練を実施して社員の意識向上に取り組んでいます。

また、ハード面の対策として、個人認証、アクセス制限などの不正アクセス対策及びウイルス対策、外部メール誤送信対策に加え、社内ネットワーク回線・機器のバックアップ体制を整えるなど、システム障害への対策も徹底しています。

1

特集

高速道路ネットワークの機能強化

建設事業中延長

81km

2017年度開通延長

46km



新名神高速道路建設の状況
宇治田原第一高架橋

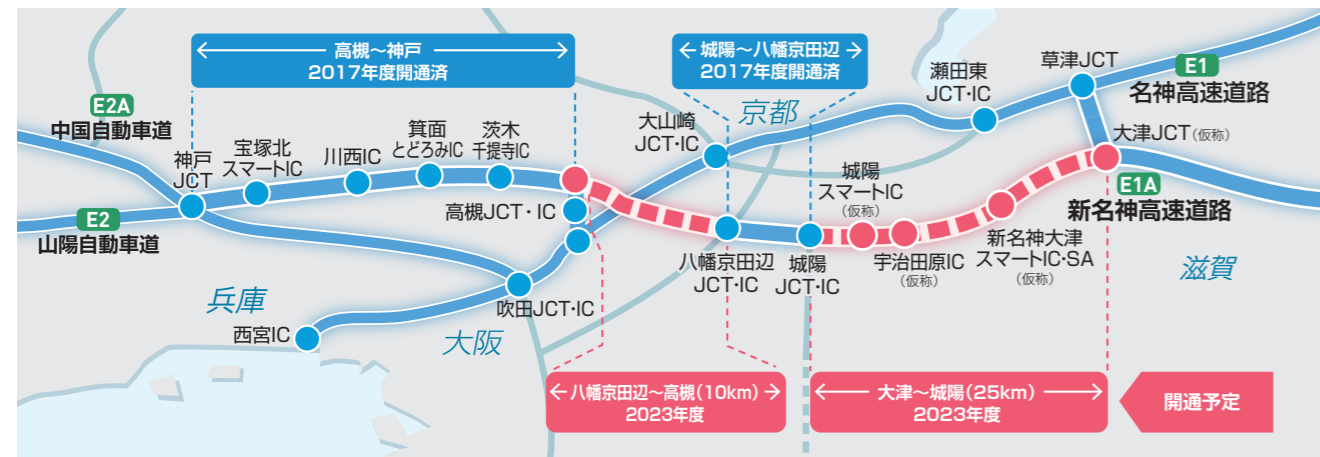
ネットワークの機能強化について

1963年の栗東IC～尼崎ICの開通以来、日本の産業と社会を支え続けてきた名神高速道路を多重化し、日本の大動脈である高速道路の信頼性を格段に高めるべく、「未来につなぐ信頼の道」新名神高速道路の整備を進めています。

この区間が整備されることで、高速走行による所要時間の短縮、時間信頼性の向上、事故・災害時における代替路の確保といった効果が期待されます。

新名神高速道路開通時期

新名神高速道路では、2017年度に城陽JCT・IC～八幡京田辺JCT・IC間、高槻JCT・IC～神戸JCT間が開通するなど、着実に整備が進んでいます。引き続き全線開通に向け、安全に最大限留意しつつ、事業を進めていきます。



事業進捗状況

新名神高速道路の大阪JCT（仮称）～城陽JCT・IC間、八幡京田辺JCT・IC～高槻JCT・IC間については、現在道路用地の調査を実施し、用地取得及び工事に着手するなど地元の皆さまのご理解をいただきながら、着実に事業を進めています。

八幡京田辺～高槻

大阪府枚方市域において、淀川に架かる橋梁工事や土工工事に着手しています。



淀川橋完成イメージ図
※細部については変更になる可能性があります

TOPIC ヨシの生育環境保全の取り組み

専門家との検討会を踏まえ保全活動を推進しています

大阪府高槻市の淀川河川敷「鶴殿ヨシ原」には、雅楽の楽器である箏篋に用いられる貴重なヨシが自生しています。当社では、ヨシの生育環境の保全を図るため、植物学や地下水の専門家などによる検討会を設置し、各種調査や、ヨシの枯死の原因となる植物の除去などを実施しています。今後も、環境保全と事業の両立を図りながら、建設工事を進めていきます。



新名神沿線の淀川では、ヨシの生育環境の保全に取り組んでいます



箏篋（ひちりき）

大津～城陽

滋賀県大津市域においては工事用道路の工事に着手しています。京都府宇治田原町域及び城陽市域においては、高速道路本線の工事に着手しています。



大津市域における工事の様子

TOPIC 田上山の緑の保全への取り組み

専門家と田上山の緑に配慮した道路構造を検討しています

新名神高速道路（滋賀県域）が横過する田上山は、寺社仏閣の建築材料や燃料材のための乱伐等で森林が荒廃し、過去幾多の土砂災害をもたらしてきました。そのため、砂防事業として明治以降100年以上の歳月をかけ植林を行い、田上山の緑を取り戻しました。

当社では、この砂防事業に配慮した道路構造とするため、専門家との検討会を開催しております。また、砂防事業を後世に伝える田上山砂防協会主催の「卒業記念植樹」に2015年から参加し、苗木等も提供しています。



地元小学生による卒業記念植樹の状況



新名神大津事務所 所長
池 聖

行政や地域の皆さまと一体となって事業を推進しています

当事務所は、新名神高速道路の大阪JCT～滋賀・京都府県境までの12.2kmの建設事業を担当しております。現在、用地は約9割取得し、工事用道路工事は3件着手しそのうち1件が竣工しました。本線工事は1件着手済み、3件が現場着手に向けて準備中です。

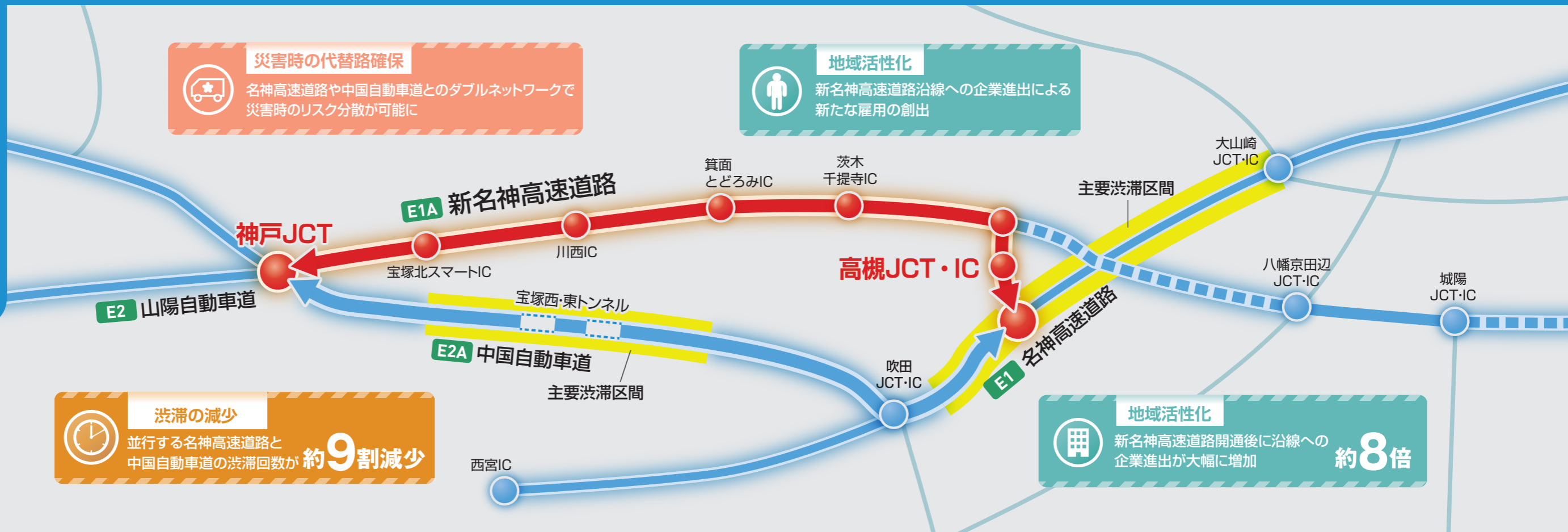
特に、当該区間に整備される新名神大津スマートIC・SAについては、大津市南部地域の産業や観光の活性化が見込まれるため、地域の皆さまの関心も高く、地域行政が主体となり地域活性化委員会も設置され、事業に対する期待を感じております。

また、地域の皆さまとの交流を図るため地域イベントに積極的に参加し、高速道路事業のPR活動を行っております。これからも皆さまへのご期待に応えられよう、2023年度開通を目指し、安全を最優先に行政・地域と一体となって事業を進めてまいります。

高速道路ネットワークの機能強化

並行する名神高速道路・中国自動車道の渋滞回数

約9割減少



新名神高速道路開通に伴う整備効果

2018年3月18日、川西IC～神戸JCT間が開通し、これにより新名神高速道路高槻JCT・IC～神戸JCT間が全て開通しました

高速道路の開通によってもたらされる効果としては、周辺道路へのアクセス性が向上するだけでなく、所要時間の短縮、物流の効率化による地域活性化など、様々な整備効果をもたらします。

新名神高速道路開通により、現在供用中の名神高速道路・中国自動車道とのダブルネットワークが形成されたことで、全国でも有数の渋滞ポイントであった中国自動車道の宝塚西・東トンネル周辺の渋滞が大幅に減少しました。これにより、定時性が向上し、人やモノの流れが一層効率化します。また、沿線では、物流企業の新規立地が加速化しており、物流サービスの向上に加え、地域雇用の増大等、目に見える効果も出てきています。



開通パレードの様子

新名神開通の効果をまちづくりに最大限活用していきます



猪名川町企画総務部 部長 古東 明子 様

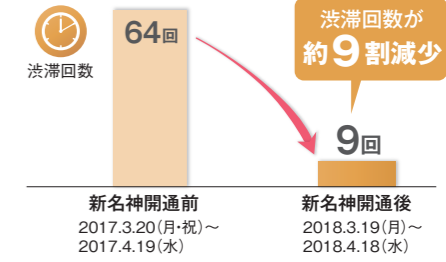
猪名川町は、兵庫県南東部に位置する人口3万2千人の町です。大阪府や京都府との府県境に位置する立地から、通勤、通学、観光などの交流がありましたが、新名神が開通し、さらに広域アクセスの利便性が高まることで、一層の交流が進んでいると実感しています。

最寄りの川西ICまでは、約3kmと利便性の高まった猪名川町では、新名神開通の効果を移動手段の充実だけでなく、まちづくりに活かすべく「猪名川町産業拠点地区」を整備し、物流施設の集積拠点となる「プロロジス猪名川プロジェクト」が始動しています。その他、年間70万人が訪れる「道の駅いながわ」の機能拡充の検討も行っており、市街地に近く川西ICへのアクセスも良い場所への移設も計画しています。

新名神開通で、より便利になった猪名川町へお越しいただき、猪名川町の魅力を楽しんでもらいたい、そして将来の移住、定住に繋げていけるよう新名神とともにまちづくりを進めていきます。

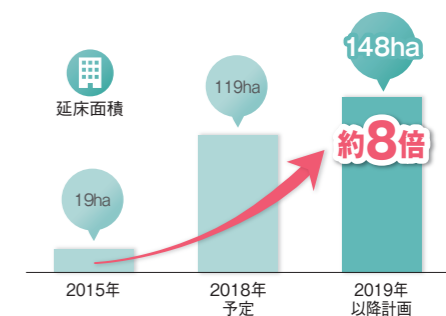
並行する名神高速道路・中国自動車道の渋滞の減少

新名神高速道路高槻JCT・IC～神戸JCT間の開通によって、並行する名神高速道路・中国自動車道（高槻JCT・IC～神戸JCT間）の渋滞回数※は約9割減少しました。また、最大渋滞長は約4割減少しました。
 ※渋滞回数：速度40km以下の状態が、1km以上かつ15分以上継続した状況で最大渋滞長が5km以上を集計



沿線への企業進出及び雇用の増加に伴う地域活性化

新名神高速道路開通に伴い、沿線では物流施設等の立地が進んでおり、この5年間で物流施設の延床面積が約8倍になることが予定されています。それにより、今後更なる物流の円滑化、雇用の創出が期待され、地域活性化に寄与していくことが期待されます。



災害時の代替路確保

新名神高速道路開通に伴い、国土軸のダブルネットワークが形成され、災害時のリスク分散が可能となります。仮に名神高速道路や中国自動車道が被災を受けた場合においても、新名神高速道路から一般道を利用して沿線地域への緊急輸送や復旧活動に寄与します。



阪神淡路大震災時における高速道路損傷状況

2

特集

高速道路の長期保全

リニューアルプロジェクト事業費

1.1兆円

リニューアルプロジェクト着手

2015年度より



床版取替工事の状況 中国自動車道 大峰橋

Renewal 高速道路リニューアルプロジェクト

現在、NEXCO西日本が管理する高速道路は約3,500kmに達しており、その約4割が開通から30年を超え、老朽化が進んでいます。そのため当社では、道路ネットワークの機能を長期にわたって健全に保つため、橋梁やトンネルなどの構造物をリニューアルする、「高速道路リニューアルプロジェクト」を進めています。

高速道路リニューアルプロジェクトの主な工事内容

床版取替工事

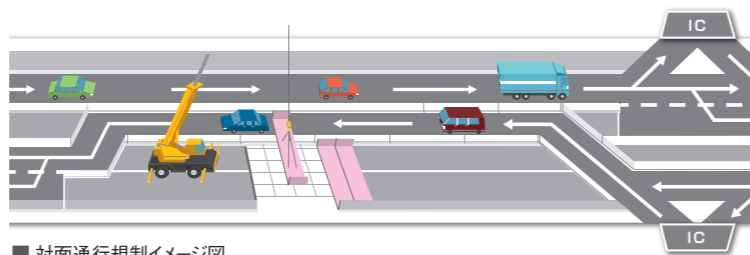
大型車の繰り返しの荷重や凍結防止剤の影響により、鉄筋が腐食したり、床版の劣化が進行しています。

床版取替工事では、劣化した床版を撤去し、工場で製作したより耐久性の高い床版をクレーンで架設し、取り替えていきます。

工事では、4車線（片側2車線）のうち、2車線を通行止めとし、残りの2車線を対面通行として実施するなど、交通を確保したうえで施工しています。



床版取替工事（左：施工前、右：施工後）



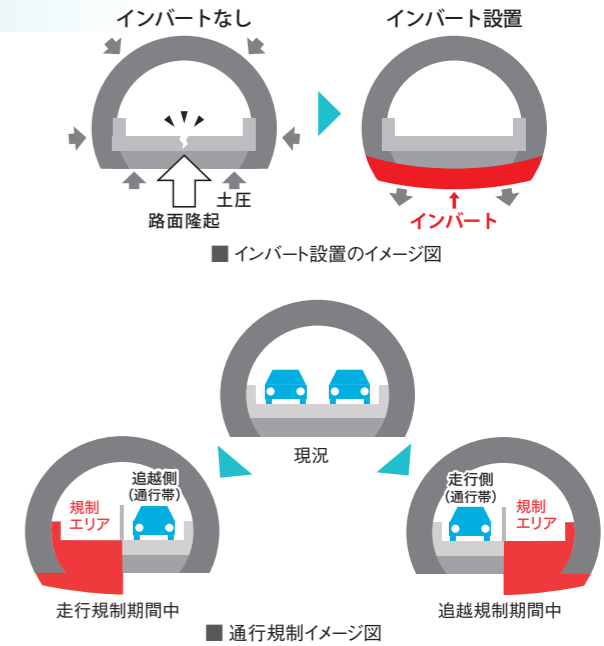
■ 対面通行規制イメージ図

トンネル修繕工事

山の土質によっては、長い年月で地盤が緩み、トンネルの路面が押し上げられる場合があります。そこで、「インバート」と呼ばれるコンクリートを設置することで、トンネルをリング状の強い構造とする「インバート設置工事」を進めていきます。

2018年4月から、高知自動車道南国IC～大豊IC間の明神トンネルにおいて、インバート設置工事を実施しています。

この工事では、お客さまへの影響を最小限とするため通行止めは行わず、車線を切替えながらインバート設置を半分ずつ進めていきます。



グラウンドアンカー設置工事

切土のり面では、地表付近の構造物と地盤を連結することによって、のり面の安定性を高めるグラウンドアンカーを設置しています。グラウンドアンカー設置工事では、追加のアンカーを設置することで、のり面の安定性を向上させています。



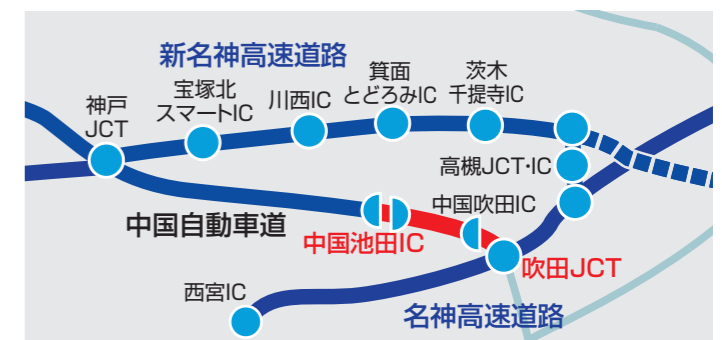
グラウンドアンカー設置工事（左：施工前、右：施工後）

高速道路リニューアルプロジェクトの今後

高速道路リニューアルプロジェクトは、今後西日本全体で進めていきます。関西の都市圏においても、中国自動車道 吹田JCT～中国池田IC間において先行的に着手していきます。

中国自動車道 吹田JCT～中国池田IC間は、複数の鉄道や主要道路と交差または並行するとともに、高速道路高架下に公園など様々な物件も多く存在するなど、これまで以上に各関係機関との綿密な協議調整、連携によって社会的影響をいかに最小限にしていくかが重要なポイントとなってきます。

新名神高速道路（高槻JCT・IC～神戸JCT）が全て開通したことで、当該箇所の交通量の一部転換が図られていることや、当該区間は阪神高速道路と高速道路ネットワークを構成していることから、阪神高速道路株式会社と協力してリニューアルプロジェクトを進めることにより、お客さまへの影響を最小限に施工する方法を検討していきます。



リニューアルプロジェクト先行着手箇所



鉄道及び重交通路線と近接する区間

鉄道交差箇所における橋梁点検（イメージ）



耐震補強工事の状況
湯浅御坊道路 広川IC付近

耐震補強の推進

高速道路は、地震等の自然災害の発生時に、人命救助や災害応急対策に必要な物資や資機材などを広域的に緊急輸送するための、極めて重要なインフラと位置付けられています。当社では災害に強い道路を目指して、橋梁の耐震補強を実施しています。

熊本地震の被災状況を踏まえたロッキング橋脚の耐震補強

熊本地震発生前までの橋梁の耐震補強については、兵庫県南部地震と同程度の地震に対して、落橋・倒壊等の致命的被害を起こさないレベルの対策を実施してきました。

熊本地震では、前震と本震の2度の大きな地震が起こったことが原因となり、特殊な構造であるロッキング橋脚を有する、高速道路を跨ぐ府領第一橋が落橋し、長時間高速道路を寸断することとなりました。そのため、当社ではロッキング橋脚を有する橋梁について、優先的に耐震補強を実施しています。



府領第一橋(落橋した直後の様子)



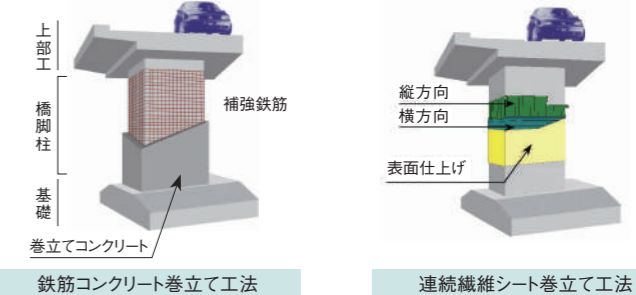
名神高速道路 島田橋 (左:補強前の橋脚、右:補強後の橋脚)

更なる耐震補強の加速化

ロッキング橋脚を有する橋梁の補強に加えて、その他の橋梁についても、大規模地震の発生確率などを踏まえ、落橋・倒壊の防止対策に加え、路面に大きな段差が生じないように、橋脚の補強や支承の交換等を行う耐震補強対策を進めていきます。

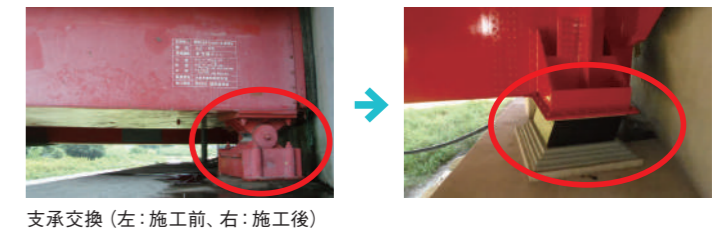
① 橋脚の補強

橋脚について、鉄筋コンクリートや炭素繊維シート等で巻立て補強することにより、橋脚の強度を高めます。



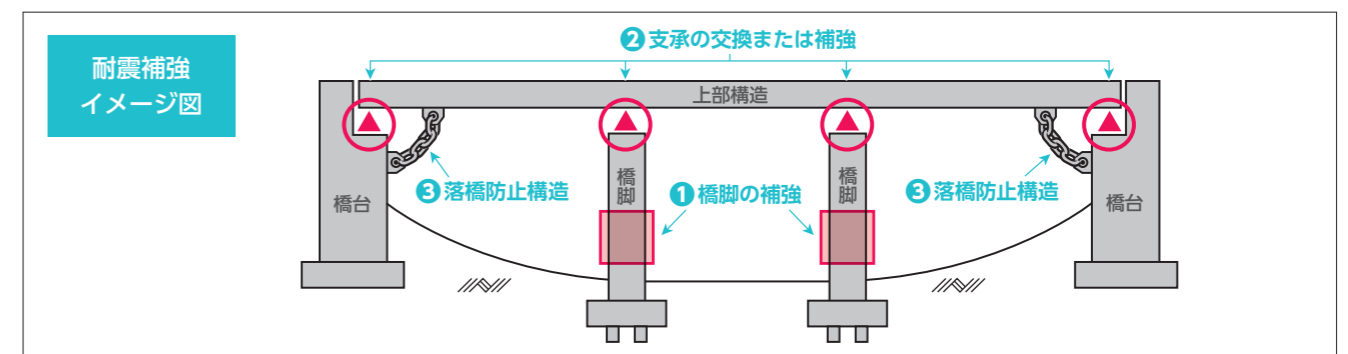
② 支承の交換または補強

支承（橋桁等の上部構造と橋脚等の下部構造の間に設置する部材）について、地震による揺れが橋桁に伝わりにくくするために、柔らかく、エネルギー吸収性能が高いものに取り替えることで、地震による衝撃を緩和します。



③ 落橋を防ぐ構造に改良

橋桁と橋台を連結することや、橋桁同士を連結することで、地震によって橋桁が落下することを防止します。



南海トラフ巨大地震など大規模災害時の『命の道』としての役割を担っています



和歌山高速道路事務所 所長
村井 茂

和歌山県は、南海トラフ巨大地震で予測される最大震度は震度6弱～7（内閣府公表）とされています。また、最新の全国地震動予測地図（地震調査研究推進本部公表）では、今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率が26%以上の範囲に入っている地域があります。

和歌山県の主要幹線道路は、国道42号と阪和自動車道・湯浅御坊道路の2路線です。国道42号は沿岸部を通過し、南海トラフ巨大地震時には津波により被害は甚大になることが予想されています。一方阪和自動車道・湯浅御坊道路は、国道42号と並行する形で山間部を通過しており、津波等の被害を受けにくく、緊急時の輸送路、『命の道』としての役割を担っています。

しかし、阪和自動車道・湯浅御坊道路は、巨大地震に備えた対策工事が必要な橋梁があり、橋脚の補強、支承の交換、落橋防止構造の設置等による耐震補強を進めています。引き続き耐震補強を推進し、『命の道』を担う災害に強い道路を目指していきます。

3

特集

高速道路の 新技術

NETIS※1 登録技術

31件※2

所有特許件数

82件※2 NEXCO3社の
共有知財を除く

※1 公共事業等における新技術情報提供システム
※2 2017年12月末時点



赤外線調査トータルサポートシステム(Jシステム)

新たな技術や研究開発の推進

高速道路の点検から補修に至る業務の高度化、効率化、長期耐久化により、当社グループは高速道路におけるリスクの低減、構造物診断の精度向上、限られた人材の中での最大限の生産性向上などに資する技術開発を進めています。

点検の高度化・効率化を展開するNEXCO西日本の技術開発

■コンクリート壁面高解像度画像撮影システム (Auto CIMA System)

高解像度のデジタルカメラで橋梁床版の下面等を撮影し、撮影画像からひび割れを自動で判別、図化する技術です。近接目視が困難な高橋脚や長大橋であっても、遠方からの撮影で状態を確認することができます。

- 特徴
- 電動雲台付きのデジタルカメラで自動撮影
- 超高精細な展開画像を自動作成

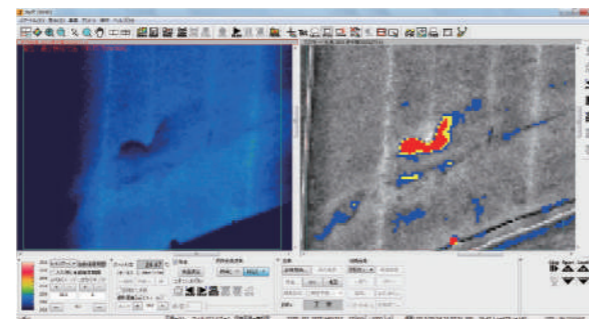


Auto CIMA Systemを使った点検の様子

■赤外線調査トータルサポートシステム(Jシステム)

コンクリートの浮き・剥離などの変状部分は、健全部分とコンクリートの表面温度が異なります。この温度差を赤外線カメラを用いて感知し、変状箇所を特定するシステムです。

本システムはコンクリート構造物の非破壊検査技術として国からも評価され※、今後の点検技術の高度化技術として注目されています。



変状箇所特定のイメージ

※「次世代社会インフラ用ロボット現場検証委員会橋梁維持管理部会」より、「試行的導入に向けた検証を推奨する」と最高位の評価を得ています。またNETISより、「活用促進技術」に指定されました。

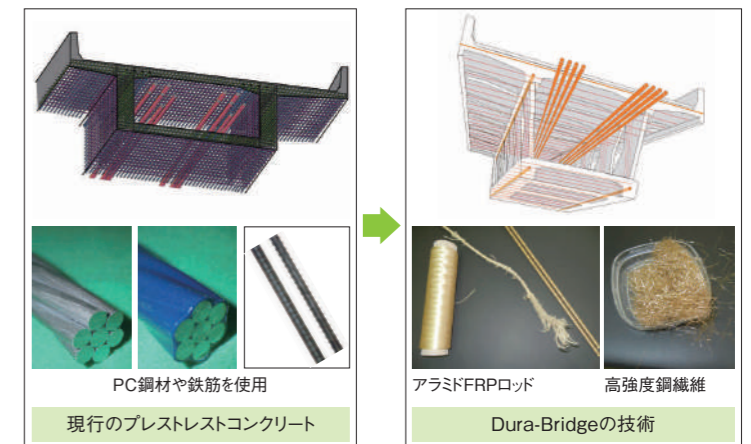
腐食しない新材料を用いた超高耐久橋梁にチャレンジ

■劣化を防ぐ橋梁や床版の開発

高速道路橋は、経過年数に伴う老朽化だけでなく様々な要因で劣化していきます。

主な劣化の原因として、橋梁に使われている鉄筋やPC鋼材などの鋼部材の腐食です。そこで、当社は三井住友建設株式会社と共同で鋼部材を一切用いず、腐食しないアラミドFRPロッドや高強度鋼繊維を使用した超高耐久橋梁 (Dura-Bridge) や、超高耐久床版 (Dura-Slab) を開発しました。

点検が不要なメンテナンスフリーの技術開発にも取り組んでいます。



高速道路技術の他事業への展開

■「eQドクターT」によるトンネル覆工点検

「eQドクターT」は、超高解像度のトンネル覆工面撮影技術、覆工面展開図の自動貼り合わせ技術、自動ひび割れ抽出技術により、覆工コンクリートの状況をより高精度に確認するためのトンネル覆工点検システムです。

最高速度100km/hで走行する車両からトンネル覆工を撮影し、撮影した画像から自動でひび割れを抽出してデジタル図面化することが可能です。

この度、西日本旅客鉄道株式会社と「eQドクターT」の技術を活用して、新たな「新幹線用トンネル覆工表面検査システム」を共同開発することになりました。今後も、このような高速道路以外の事業者との連携した取り組みを行い、広く社会に貢献していきます。



トンネル壁面画像の自動ひび割れ抽出状況

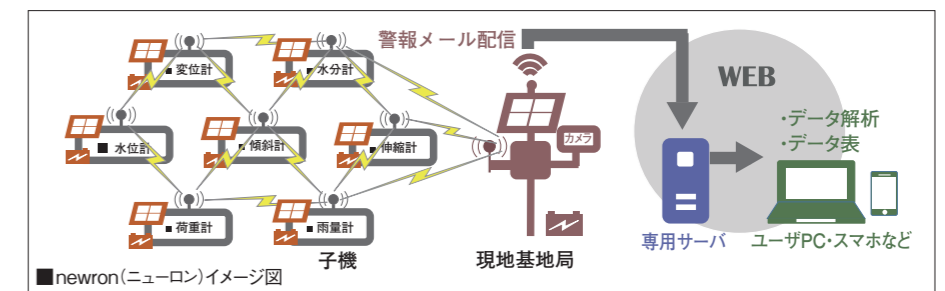
大学との連携によるオープンイノベーションの取り組み

■斜面防災技術の高度化に関する研究開発

無線センサを活用し、あらゆる構造物を常時監視するシステム「newron (NEXCO West Real-time Observation Network)」を、大阪大学と連携して共同開発を行い、実用化を進めています。高速道路上で発生した土砂災害の中で突出して多いのが、降雨による斜面の崩壊です。本システムは設置・撤去・メンテナンスが容易な無線センサで斜面の土中水分や地下水位などをモニタリングするものであり、IoT技術を活用して高速道路構造物の常時監視を可能とするものです。現在、本システムを新名神高速道路 (高槻JCT・IC～神戸JCT) に設置し試行しています。



水分計現地設置写真 (切土や盛土内の土壌水分量を計測して、表層崩壊の発生を検知する)



4

特集

お客さまサービス向上

SA・PAの数

188カ所

※第三セクターの運営を除く有人の営業施設

インフォメーション

68カ所

※第三セクターの運営を除く



高速道路のお客さまと地域の皆さまに愛されるSA・PAを目指して

NEXCO 西日本では、快適な休息をご提供できるよう地域の特性を活かした店舗づくりや品揃え、清潔感と快適性を備えたトイレづくり、駐車場の確保などを心がけ、高速道路のお客さまと地域の皆さまにくつろぎ、楽しさ、にぎわいを実感していただける空間を提供していきます。

西日本最大級のSAが新たに誕生！～宝塚北SA～



2018年3月18日に新名神高速道路（川西IC～神戸JCT間）が開通し、新たに西日本最大級の店舗と駐車台数を有する上下線集約型の『宝塚北SA』が誕生しました。宝塚らしさ満載の同SAについて紹介します。

地域の特性を活かした店舗

宝塚市中心部の南欧風の景観をイメージした外観、宝塚歌劇グッズや宝塚が生誕地である手塚治虫のキャラクターグッズの販売、イベント開催など、地域の魅力を発信し、ご来店いただいたお客さまに宝塚らしさを満喫していただける施設となっております。



宝塚歌劇グッズの展示でお迎え



手塚治虫のキャラクターグッズ販売



宝塚歌劇団OGによるショー

地元食材を使用したお食事メニューの他、西日本の高速道路で初出店となる店舗や、関西の名産品の販売など多種多様な品揃えでお客さまをお待ちしています。



「西谷食堂花ぐるま」丹波黒どりの親子丼



西日本の高速道路では初出店となるスイーツブランド「Yogorino (ヨゴリーノ)」



自家製天然酵母を使用したナチュラルベーカリー「森のパン」

快適な休息をご提供する取り組み

■多様なニーズにお応えするトイレ

空きブースが目でわかる「パノラマ配置」を採用しており、混雑時にも円滑・快適にご利用いただくことができます。また、様々な用途に応じたトイレ（ファミリートイレなど）、パウダールームコーナー、トイレの待合スペースの設置など、お客さまの様々なニーズにお応えするとともに、清潔感とくつろぎを感じられるようデザインにもこだわりました。



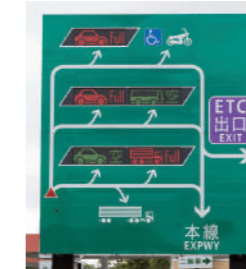
空きブースが目でわかるトイレ



(上)パウダールームコーナー
(下)ファミリートイレ

■駐車場混雑状況のご案内

駐車場には西日本のSA・PAでは初となる案内誘導表示板を入口に設置し、駐車場の混雑状況をお知らせし、お客さまのご不便を解消する取り組みを行っています。



誘導表示板の例

TOPIC 身障者用大型駐車マスの設置



大型バスで来られる身障者の方が安全に利用していただくため、店舗等の近くに屋根付きの駐車マスを設置しています。

地域に開かれたSA

ウェルカムゲート

一般道からも出入りできるゲートを設け、高速道路をご利用のお客さまのみならず、地域の皆さまにもSAをご利用いただける取り組みを行っています。

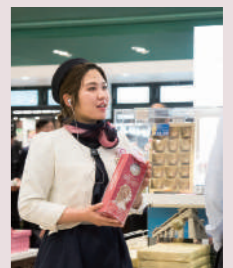


光明興業株式会社
宝塚北SA
コンシェルジュ
板橋 佳慧

お客さまが「お宝」を見つけていただけるような、きめ細かな接客サービスを心掛けています

私たち宝コンシェルジュは、周辺観光情報やおすすめのお土産のご紹介のほか、お昼の混雑時にはフードコートの空席のご案内、SA内おすすめ写真スポットのご紹介など、お客さまのあらゆる要望を承り、一人ひとりに応じたきめ細かいサービスをお届けすることを目標に日々取り組んでいます。

宝塚北SAは「ハイウェイの宝島」として、エリア内の様々な場所で「お宝」をご用意しております。中でもお土産コーナーでは、地元宝塚をはじめ関西各地のお土産を幅広く取りそろえ、みなさまをお待ちしております。私たち宝コンシェルジュをはじめとするスタッフ全員が、お客さま一人ひとりの「お宝」を見つけるよう、お手伝いさせていただきます。





お客さま

快適、安全、信頼、出会い、安らぎ等の新たな価値を提案し提供します。

交通安全の取り組み

交通安全の確保

逆走対策 ▶ 関係機関と連携して、2020年までに高速道路での逆走事故ゼロを目指しています

インターチェンジや休憩施設等から本線への合流部でのUターンを抑制するため、注意喚起の矢印板や看板などの設置、路面に進行方向を示す矢印を標示するなどの対策を実施しており、2017年度に管内の全ての箇所対策を完了しました。

更に一般企業等より右表の各テーマに沿った新たな逆走対策技術を

2016年度に公募し、そのうち27技術について2017年度に実際の高速道路上に設置し、効果の検証を行い、



休憩施設入口部での逆走対策例

今後の実用化方針を定めました。

また、ポスターやチラシ、交通安全キャンペーンを活用した啓発活動も実施しています。

新たな逆走対策技術の公募テーマ

- テーマⅠ：道路側での逆走車両への注意喚起をする技術
- テーマⅡ：道路側で逆走を発見し、その情報を収集する技術
- テーマⅢ：車載機器による逆走車両への注意喚起をする技術

対面通行区間での正面衝突事故対策 ▶ ラバーポールに代えてワイヤロープを設置することによる安全対策を行っています

重大事故につながりやすい対面通行区間での高速道路の正面衝突事故の緊急対策として、2017年度に一部区間でワイヤロープの試験設置を行い、安全対策の検証を行いました。

その結果、正面衝突事故防止に大きな効果が認められたことから、残りの対面通行区間について2018年度より設置を進めていきます。



ワイヤロープの設置状況

高速道路交通の管理

高速道路のパトロール ▶ 24時間365日の高速道路巡回を通じて、道路の安全と円滑な交通を確保しています

道路の安全と円滑な交通の確保を図るため、交通管理隊が高速道路を24時間365日体制で巡回しています。

交通管理隊が収集・把握した渋滞の発生状況や気象情報などは道路管制センターで集約し、情報板などを通して

ドライバーに迅速に発信しています。

また、路上障害物が発生した際は、緊急出動して排除にあたるほか、警察・消防と連携した事故対応、故障車に対する援助などを通じて、お客さまの安全で快適なドライブをサポートしています。



落下物排除の状況

社員コメント

プロ目線とお客さま目線の両方の視点で、業務を行っています

お客さまの走行の「安全性」「高速性」「定時性」を確保するため、24時間365日体制で定期的に高速道路を巡回し、異常事態の未然防止と早期回復を行っています。

プロの目線で道路の不具合や異常事態を見つけ出し、お客さまが安全・安心・快適に高速道路をご利用できるように、お客さまの目線で

改善策を見出し、NEXCOに提案を行うことを心がけています。そのため、日々現場で起こりうる様々な状況を想定した訓練を行い、技量の研鑽と判断力の向上に努めています。

100%の安全・安心を提供できるように、引き続き異常事態の未然防止と早期回復に努めていきます。



西日本高速道路パトロール関西(株) 神戸基地 隊長補佐 宇治田 篤

WEB掲載情報

交通安全対策、交通渋滞の緩和、アイハイウェイ、ETCの利便性向上、CS向上に関する各種取り組み

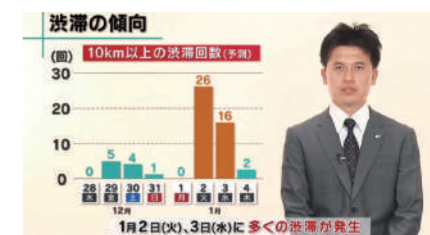
快適な高速道路空間の提供

交通渋滞の緩和

渋滞予測情報の提供 ▶ 渋滞回避のための呼び掛けを行っています

GW・お盆・年末年始の交通混雑期に渋滞予測ガイドを製作し渋滞予測情報を公表する他、「渋滞予測士」(渋滞予測を専門で行う社員)がテレビ・

ラジオ・新聞等のマスメディアに出演し、渋滞回避のための分散利用、運転マナー、いざという時の対処法について呼び掛けを行っています。



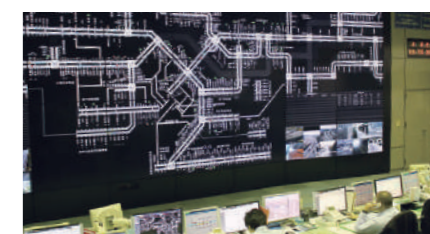
TVでも渋滞回避の呼び掛けを行っています

道路交通情報

道路管制センター ▶ 情報の集約・発信基地としてお客さまの安全確保に努めています

道路管制センターでは、併設されている管区警察局高速道路管理室とともに、24時間365日体制で、安全運転に必要な情報の収集・発信や道路設備の監視・制御を行い、お客さまの安全確保に努めています。

同センターの交通管制部門では、交通事故や渋滞、異常気象などの情報を集約して、情報板やカーナビなどを通じてリアルタイムにドライバーに発信し、交通管理隊への緊急出動命令や警察・消防への通報を行っています。



道路管制センター

お客さまサービスの向上

料金所での接客サービスの向上 ▶ 機械化、ネットワーク化等に伴うご心配を解消すべく、おもてなしの心をもって接客対応します

料金所は、お客さまを笑顔でお迎えし、快適に高速道路をご利用いただけるような接客サービスに努めています。

近年、ETCの普及、料金精算機の導入、スマートICの整備等に伴い、料金所ではインターホンを通してお客さまと接する機会が増えています。

そこで、シミュレーションを取り入れた勉強会やアナウンス研修等を実施し、

接客サービスを向上させることにより、声によるご説明・ご案内においても「笑顔」を届けられるよう、努めています。

また、増えつつある外国のお客さま向けに一部の料金所では外国語による案内資料を準備し対応しています。

これからも、「NEXCO西日本の顔」として、おもてなしの心を持ってあらゆるお問い合わせに対応し、お客さ

まに安心して快適にご利用いただけるよう、24時間365日体制で業務に取り組みまいります。



料金収受の様子

お客さまセンターでの対応品質の向上 ▶ 高速道路に関する総合的な相談窓口として、正確、親切、さわやかな対応を基本に、24時間365日体制で対応しています

対応するテレコミュニケーターは、お客さまとの対応を円滑に進めていく能力の向上などを目的とした研修に積極的に取り組むとともに、

応対用の資料を作成し勉強会を実施するなど、継続的に対応品質の向上に努めています。

今後も、こうした取り組みを継続し、いっそうお客さまにとって利用しやすい相談窓口を目指していきます。

【お客さまセンター】の受付体制

受付時間	年中無休(24時間)
お問い合わせ数	年間約41万件(受電件数)
外国語対応	5カ国語(英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語)

【お問い合わせ急増時の対応】

通行止めの発生時や荒天時など、お問い合わせの急増時への対応として、以下の情報提供を実施しています。
・お電話の接続待ち中に、自動音声でのアイハイウェイのご案内
・フリーダイヤルからハイウェイテレホン(交通情報の自動音声案内)への転送



お客さまセンター



お客さま

SA・PAのお客さま満足施設への変革

SA・PA店舗のリニューアル

九州自動車道山川PA(上下線) ▶熊本地震を乗り越え、地域産品を活かし、生まれ変わりました

2016年4月に発生した熊本地震以降の営業休止を乗り越えて、山川PA上下線が2017年5月にリニューアルオープンしました。お食事コーナーでは、従来から好評だった“山川ラーメン”を、コクのあるとんこつスープや地元柳川市の醤油を使用したタレにたっぷり漬け込んだ自家製チャーシューを用いて更に美味しく仕上げ、看板メニューとしました。また、広くなったショッピングコーナーでは、秘伝のタレに漬け込んだ煮たまごを包んだ地元福岡県みやま市の名物おむすび「玉めし」が大変

ご好評をいただいております。当社グループのSA・PAでは、地元の食材を使用したメニューを取り揃え、お客さまにその土地ならではの味を提供しています。



山川ラーメン



九州自動車道山川PA(下り線) 外観



玉めし

希少な地域食材を使用した商品展開

『銀不老かりんとう』 ▶希少な食材を活かした商品を西日本各地で販売しています

“銀不老豆”は、高知県大豊町のみで生産されている大豆です。生産者の高齢化により生産量が激減していましたが、地域住民により徐々に生産量が回復しつつあります。当社グループとして、そのような希少な地域食材を守り、普及を後押ししたいとの思いから、銀不老豆の粉末を生地に練りこんだ商品『銀不老かりんとう』を西日本高速道路リテ

ル(株)が運営している全48店舗で販売し、2017年度は10万個以上を売り上げ、地域の隠れた逸品の普及に大きく貢献しました。今後も、当社グループのネットワークを生かすことで、各地域の特徴ある商品を掘り起こし、お客さまのみならず地域の皆さまにも喜んでいただけるように取り組んでまいります。



銀不老かりんとう



豆まきお手伝いの様子



収穫風景



店舗での販売

Web WEB掲載情報
シャワーステーション、イベントの実施

地域の賑わい拠点

ウェルカムゲート ▶地域の皆さまにもご利用いただき、愛されるSA・PAを目指しています

SA・PAのうち、70箇所では一般道から自由にお立ち寄りいただける出入口『ウェルカムゲート』を整備しており、高速道路をご利用のお客さまに留まらず、多くの近隣のお客さまにもお買いものやお食事をお楽しみいただいております。

さらに、徳島県の上板SA下り線における親子向けの工作体験や生け花教室などの実施や、広島県の小谷SA上り線におけるパンづくり教室の開催など、SA・PAを高速道路の休憩施設としてだけでなく、地域のふれあ

いの場としてもご利用いただいております。今後もSA・PAが地域の賑わいの拠点となるよう、ウェルカムゲートの整備を進めてまいります。



パンづくり教室の様子



親子向け工作体験の様子



山陽自動車道小谷SA(上り線)ウェルカムゲート

ドライブの拠点機能

インフォメーション ▶快適で楽しく、安全なドライブをサポートしています

SA・PAに設置されたインフォメーションでは、お客さまの快適で楽しく、安全なドライブのために、高速道路の交通情報、SA・PAのご案内、地域の観光に関する情報など様々な情報をお客さまに発信しています。例えば岡山県の大佐SA上下線では、スタッフが地域ゆかりの偉人やゆかりの地を手作りのポップで紹介するなど、工夫を凝らした観光情報発信も行なっています。

近年は外国のお客さまが訪れることが増えています。そこで、外国語

版高速道路ガイドマップの配布や翻訳サービス・アプリの活用など、外国のお客さまにも安心して高速道路をご利用いただける環境整備に努め、日本政府観光局(JNTO)から

外国人観光案内所(カテゴリー1)の認定を受けました。

今後もお客さまに笑顔でお過ごしいただけるよう取り組んでまいります。



名神高速道路 大津SA(下り線)「パヴァリエびわ湖大津」



タブレット端末を使った対応の様子

Wi-Fi サービス ▶快適にインターネットや動画などのコンテンツをお楽しみいただけます

当社管内のSA・PAでは、川南PAを除く全ての有人SA・PA計196箇所Wi-Fiサービス「W-NEXCO Free Wi-Fi」を整備しています。無料で、利用時間や回数に制限がなく、NEXCO東日本・中日本と共通

のID・パスワードです。また、ログイン画面が5カ国語に対応しているため、国内の方のみならず、外国のお客さまにも安心してご利用いただけます。



「W-NEXCO Free Wi-Fi」のサービスマーク

社会

- 共生社会の一員として、地域と積極的に連携します。
- 環境を重視して自然との共生を図ります。

社会基盤である高速道路の整備と長期保全

高速道路ネットワークの整備と機能向上

新たな高速道路ネットワークの整備

各地域を結び、自動車交通の混雑緩和や地域間の連携強化に寄与しています

高速道路ネットワークの整備は、自動車交通の混雑緩和や、地域間の交流・連携の強化に繋がります。

NEXCO西日本は、高速道路機構と締結した協定に基づき、高速道路ネットワークの整備促進に努めています。

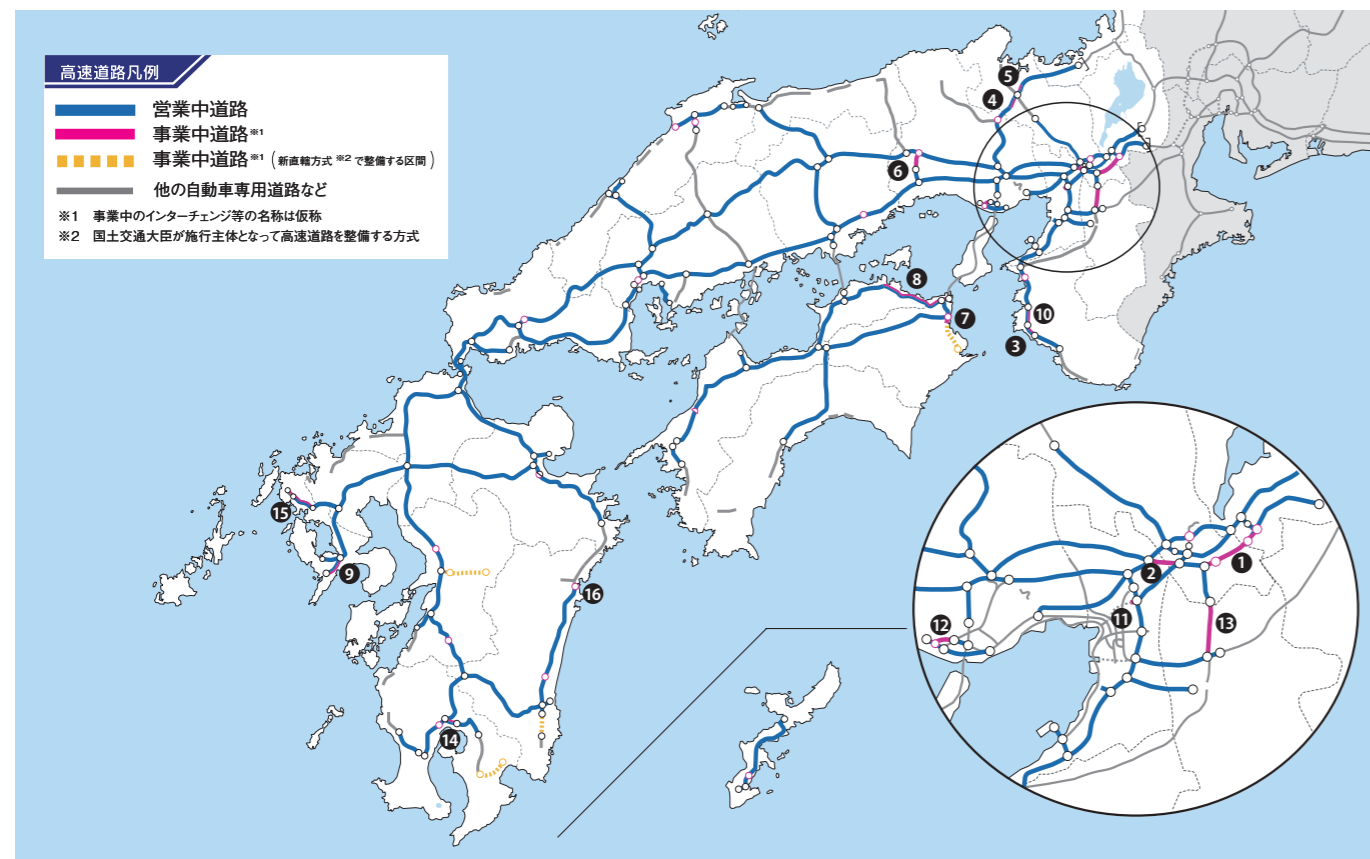
新規建設区間においては、2017年12月10日に新名神高速道路高槻JCT・IC～川西IC26.2km、2018年3月18日に新名神高速道路川西IC～神戸JCT16.9kmが開通しました。

また、2車線区間の4車線化により、交通集中による渋滞が解消し、観光

地などへのアクセスのしやすさが向上するとともに、制限速度引上げや上下線分離構造となることから、快適性や安全性が向上し、対面通行に比べて円滑な走行が可能になります。

2018年度以降も新規区間の整備や4車線化を進めていくことで、広域的なネットワークの形成によるアクセスの向上や所要時間の短縮を実現し、観光誘客や地域産業の活性化、物流事業等の効率化、救急医療活動など社会サービスの効率化に貢献してまいります。

高速道路ネットワークの整備状況



主な事業中区間

区間	延長
① 新名神高速道路 大津JCT～城陽JCT	25km
② 新名神高速道路 八幡京田辺JCT～高槻JCT	10km
③ 阪和自動車道 御坊IC～印南IC(4車線化)	10km
④ 舞鶴若狭自動車道 福知山IC～綾部IC(4車線化)	10km
⑤ 舞鶴若狭自動車道 綾部PA～舞鶴西IC(4車線化)	5km
⑥ 播磨自動車道 播磨新宮IC～山崎JCT	12km
⑦ 徳島自動車道 徳島東IC～徳島JCT	4km
⑧ 高松自動車道 鳴門IC～高松市境(4車線化)	52km
⑨ 長崎自動車道 長崎IC～長崎多良見IC(4車線化)	11km
⑩ 湯浅御坊道路 有田IC～御坊IC(4車線化)	19km
⑪ 淀川左岸線延伸部 門真JCT～門真西	1km
⑫ 第二神明道路 永井谷JCT～石ヶ谷JCT	7km
⑬ 大和北道路 木津IC～郡山下ツ道JCT	12km
⑭ 単人道路 加治木JCT～単人東IC(4車線化)	7km
⑮ 佐世保道路 佐世保大橋IC～佐々IC(4車線化)	17km
⑯ 延岡南道路 延岡南IC	1km

(注) 事業中区間の IC・JCT 名称は仮称
 ※ 佐世保中央IC～佐々IC(9km)については、佐世保道路4車線化完了時に国の管理から当社管理になります

WEB 掲載情報

道路付属物の更新・修繕、新技術の導入・研究開発による業務の効率化

スマートICの整備 ▶ 2017年度は6カ所のスマートICを新たに整備しました

高速道路の利便性を向上させるため、スマートICの整備を進めています。スマートICとは、ETC専用の簡易なインターチェンジのことで、ETC搭載車以外は出入りできないものの、一般道路からのアクセス経路が増え、高速道路がさらに利用しやすくなります。

2017年度は宝塚北(新名神)、福山SA(山陽道)、沼田PA(山陽道)、城南(九州道)、木場(長崎道)、小城(長崎道)で新たにスマートICが開通し、計29カ所となりました。現在、さらに11カ所の整備に着手しています。

スマートICの設置予定

スマートIC	設置数
新名神大津(新名神)	11カ所
城陽(新名神)	
和歌山南(阪和道)	
湯田PA(中国道)	
加茂BS(松江道)	
中山(松山道)	
北熊本(九州道)	
人吉球磨(九州道)	
桜島SA(九州道)	
別府湾【上り線】(東九州道)	
国富(東九州道)	

(注) スマートIC名称は仮称

ネットワークの機能向上 ▶ 近畿圏の有料道路を一元的に管理します

近畿圏の地方道路公社等が管理していた南阪奈有料道路、堺泉北有料道路、第二阪奈有料道路、阪神高速道路京都線(油小路線・斜久世橋)について、合理的・効率的な管理を行う観点から、NEXCO西日本で一元的に管理を行います。

これにより、NEXCO西日本の高速道路の料金水準に整理・統一され、お客さまにわかりやすくご利用いただけるようになります。

※ 阪神高速道路京都線(新十条通)は、京都市管理となり、無料で通行できるようになります。



■ : NEXCO西日本が管理する高速道路
 ■ : 2018年4月から管理中の高速道路
 ■ : 2019年4月から管理予定の高速道路

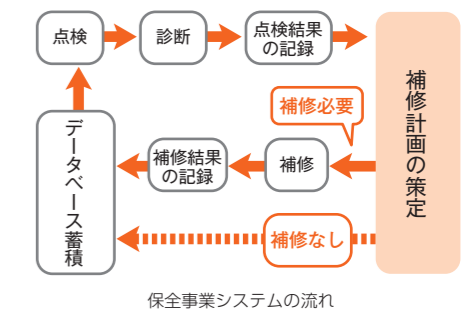
高速道路インフラの健全性の確保

道路構造物の点検・管理 ▶ 「保全事業システム」の確立と高度化を進めています

高速道路を健全な状態に保つために、点検から補修、監視を行う一連の業務システムの確立と高度化を進めています。

現場力の高い技術者の育成、非破壊検査技術による点検の高度化や効

率化、AIを活用した変状判定や健全性診断の支援、更には維持管理しやすい構造への更新などに取り組んでいます。



道路構造物損傷の抑制 ▶ 重量超過等の違反車両の取り締まりを徹底しています

大型車交通や車両総重量の増加に加え、重量超過等の違反車両は、道路の劣化を進行させる要因となっています。

そこで、重量超過等の法令違反車両に対しては、専門の取締隊を設け、

IC入口や本線料金所を中心に、指導・取り締まりを行い、積載物の軽減や通行の中止など厳格な措置を実施しています。また、特に常習的・悪質な違反者に対しては警察への告発も行っています。



取り締まりの様子

災害対応力の強化

災害に強い組織・連携ネットワークの構築

防災体制 ▶ 道路機能の迅速な回復に努めています

高速道路の早期復旧にあたっては、情報の収集・発信拠点となる「災害対策本部」を災害規模に応じて設置し、本部を中心にグループ会社も含め指揮統制の取れた体制を構築することが重要です。そこで、訓練等によって得られた課題についての対策を講じるなど、災害対応計画を

継続的に見直しています。

2017年度は九州北部豪雨での被災状況を踏まえ、急変する気象に対応可能なように、高速道路が通過する自治体を対象に特別警報が発表された場合には防災体制を強化する見直しを行いました。



熊本地震時の社内災害対策本部

防災訓練 ▶ 関係機関と連携し、実践的な訓練を実施しています

地震など自然災害の発生時や通常起こり得る交通事故などを想定し、迅速かつ確かな対応ができるよう、グループ全体や関係機関と計画的に防災訓練や災害図上訓練（DIG）等を実施しています。

2017年度は、2016年度に引き続き関係機関と連携した実働訓練を実施しました。9月に実施した本社防災訓練では、上町断層に起因する直下型地震が発生した想定として、

関西支社と連携し災害情報の収集・情報発信等の訓練を実施しました。

また、津波被害が想定される地域では、自治体や住民の皆さまと連携して、津波一時避難訓練を行っています。2017年度は沖縄自動車道や阪和自動車道の沿線地域で実施しました。

2018年度も引き続き、関係機関と連携した訓練を実施しながら、課題抽出および改善等に取り組み、実

効性のある体制の構築に取り組んでいきます。

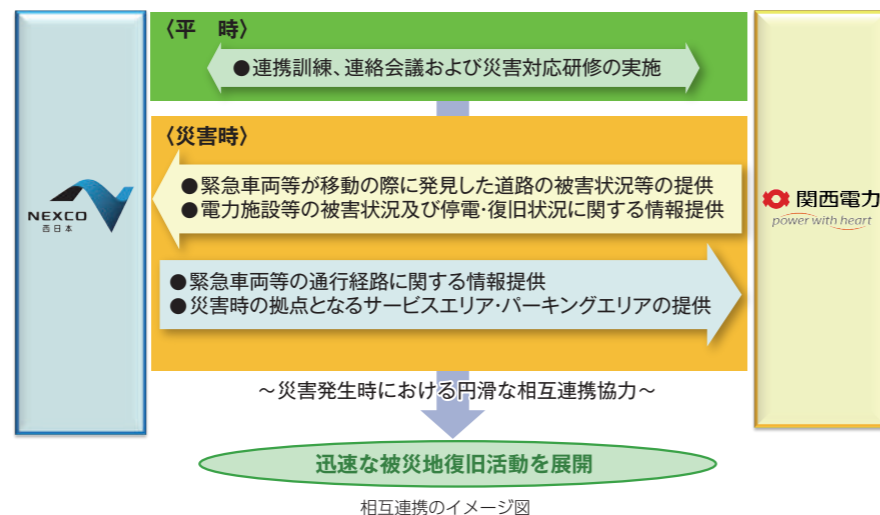


総合防災訓練の様子

地域・他機関との連携 ▶ 災害協力協定等に基づく連携強化を図っています

地域住民の安全・安心の向上を図るため、これまで西日本の全24府県、陸上自衛隊、独立行政法人国立病院機構災害医療センター及び同法人大阪医療センターと大規模災害時の相互協力を定めた災害協力協定を締結しています。

加えて、新たに2018年1月に関西電力と協定を締結し、連携強化を進めています。



相互連携のイメージ図

TOPIC 九州北部豪雨への対応 ▶ 地域と連携し、早期復旧に努めました

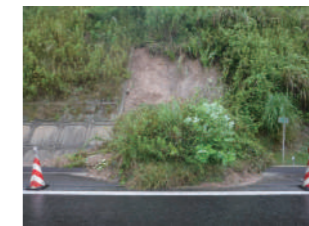
2017年7月の九州北部豪雨により、大分自動車道、九州自動車道をはじめ九州北部地域で降雨による通行止めが発生しました。

7月5日から6日にかけて発生した大雨は、線状降水帯が同じ場所に停滞したことで引き起こされたもので、大分自動車道の一部区間において最大545mmの雨量を記録し、高速道路では小規模なり面崩壊が10箇所発生しました。

また、高速道路周辺地域からの影響として、高速道路区域外からの土砂流入により、大分自動車道杷木料金所が冠水したほか、大分自動車道高山トンネル付近のカルバートボックスに倒木・竹が流入し、一般道が完全に通行不能となりました。加えて、周辺のため池が決壊する恐れがあったこと等から、料金所を含む朝倉市杷木寒水区地域に避難指示が発令される想定外の事象が発生しました。

NEXCO西日本では、高速道路及び周辺地域の被災状況を把握するため、防災ヘリやドローンを活用し、上空からの情報収集に努めたほか、TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）と合同で現地調査を行う等、関係機関と連携のうえ対応にあたりました。

被害の多かった朝倉市への支援としては、豪雨災害により流出した土砂や流木の仮置き場周辺の土ほり対策として周辺地域へ散水活動を行い、早期復旧に努めました。



のり面崩壊状況（発災時）



のり面崩壊状況（応急復旧後）



倒木・竹の流入状況



国土交通省 TEC-FORCE との合同調査



防災ヘリでの撮影状況

社員コメント

北部豪雨時の対応について

7月5日は、朝から雷が鳴り始め、昼からは雨も降り出し、今までに無いような大雨が降り続けました。同日16時ごろに高速道路本線通行止めの情報が入り、それから1時間ほどして料金所周辺は洪水状態となり、土砂が流れ込む事態となりました。

その中で、一般道が冠水し、行き場を失い高台である料金所へ避難して来た方々がいたため、料金所事務所内へ受け入れ、備蓄品から食料、水、毛布などの提供を行いました。小さいお子さまからお年寄りの方まで30名程おられましたが、翌日、無事戻られる際には感謝の言葉をいただきました。今回の災害対応は想定以上のものでしたが、日頃からお客さまに気持ちよく利用していただけるように、お客さまの立場に立った対応を心掛けていたことから、避難者の受け入れについて一人の負傷者もなく最善を尽くすことが出来たのではないかと思います。

杷木料金所内では今回の経験を踏まえて、地域防災マップによる危険箇所や避難場所の把握、車両の誘導や関係各所への連絡をより円滑に行えるように役割分担を定めるなど、有事の際に迅速に対応できるように、日々緊張感を持って業務を行っています。



西日本高速道路サービス九州株式会社 杷木料金所 サービス係長 松尾 なぎさ



土砂流入時の様子

保有している技術・ノウハウの社会への展開

技術・ノウハウを活用したさまざまな施策

音による交通規制中注意喚起技術の展開 ▶ グループの技術を活用し、高速道路の安全・安心を提供しています

西日本高速道路総合サービス沖縄(株)では、2013年7月に沖縄自動車道で発生した交通規制中の事故を受け、規制箇所近づいてくる車両に対して、従来の標識などによる注意喚起に加え、音で注意喚起する超音波による指向性注意喚起システム「USIMPACT」を開発しました。

超音波は人間の耳には聞こえない高い周波数の音で、特定の方向に向かって遠くまで伝わる特性があります。「USIMPACT」は、交通規制をしている箇所の手前に設置し、音声を超音波に変えて車線の一定範囲に向けて照射します。照射範囲の車線にさしかかった車両に超音波がぶつくと、波形が

変わって運転手の耳に聞こえる音に戻る仕組みになっています。

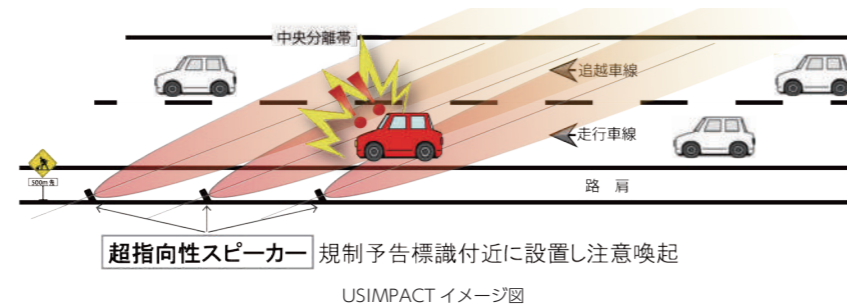
開発後も試行錯誤を繰り返し、2017年度に行われた沖縄自動車道の橋梁床版取り替え工事の2か月間連続した交通規制において、この「USIMPACT」を使用し運転手へ注意喚起を行ったところ、車両侵入事故は発生せず、一定の効果が得られました。

引き続き開発したシステムの分析・

検証を行いながら改良を重ねていき、沖縄から全国の高速道路規制作業の安全・安心を提供していきます。



USIMPACT 運用の様子



USIMPACT イメージ図

海外への事業展開と国内への応用

NEXCO 西日本グループの保有する技術の海外展開 ▶ 当社の強みを活かし、海外事業の展開を図っています

NEXCO西日本グループは、長年にわたる高速道路の建設・運営管理の経験によって、海外でも展開できる技術やノウハウを保有しています。細部まで整備されたマニュアルに基づく点検から補修までの一括した保全分野のマネジメント力や、SA・PAの運営ノウハウについては、海外での高速道路運営において実践されています。

具体的には、インドネシアにおいて、当社パートナー企業が建設する高速道路の施工管理をサポートする技術アドバイザーを派遣するなど技術連携を進めています。また、米国においては、NEXCO-West USA, Inc.が当社グループの保有する赤外線カメラや高解像度カメラなどの非

破壊検査技術を用いてコンクリート構造物点検事業に参入し受注実績を伸ばしています。

また、国内の高速道路維持管理の高度化にあたり、米国での地中探査レーダー (GPR) を活用した道路橋床版の点検技術の動向調査や、当社グループが保有する道路構造物点検技術の健全度評価の有効性とその適用性の拡大の可能性に関する米国セントラルフロリダ大学との共同研究を通じ、技術開発の方向性を検討しています。

以上のように当社の強みを活かして海外での維持管理や建設事業を展開するとともに、海外での経験を国内の道路事業にフィードバックする

ことをめざして、海外業務に取り組んでいます。



インドネシアでの連携会議の様子



NEXCO-West USA, Inc. 近接目視困難箇所の構造物点検

Web WEB 掲載情報

ノウハウを活かした業務受託、環境技術で社会に貢献、海外での具体的な事業展開 など

高速道路を通じた地域活性化

自治体や関係団体と連携した取り組み

ドライブパスの実施 ▶ 自治体と連携して、地域の魅力発信に取り組んでいます

自治体や関係団体と連携した観光振興の取り組みの一つとして、ETC限定で周遊エリアの高速道路が定額で乗り放題となる「ドライブパス」を実施しています。

2017年度は、関西・中国・四国・九州各地域のドライブパスや、訪日外国人向けの企画等の実施により、約20万件のご利用がありました。

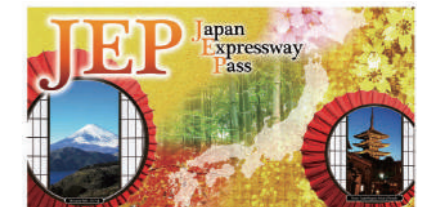
2018年度は、対象エリアの見直しやSA・PAでの特典の充実など、

より魅力のある商品となるよう改善し、各種ドライブパスを継続して実施するとともに、二輪車限定のツーリングプランも新たに実施しています。

今後もお客さまに喜んでいただける商品を企画し、高速道路ネットワークを活用した地域の魅力発信に取り組んでいきます。

2017年度の主なドライブパス	利用件数
ぶらり中国ドライブパス2017	31,744件
San'in-Setouchi-Shikoku Expressway Pass	1,554件
Kyushu Expressway Pass	33,556件
四国まるごとドライブパス2017	15,549件
京都・若狭路・びわ湖 ぐるっとドライブパス 2017	9,836件
九州よかよかドライブパス2017	111,831件
Japan Expressway Pass	282件
Kansai Expressway Pass	107件

※2017年度内のご利用件数を集計したものです。



2017年度より新たに商品化した訪日外国人向け周遊割引企画

オフィシャルパートナーとしての活動 ▶ 国や自治体と協働し、地域の活性化に取り組んでいます

当社は2017年3月に環境省と「国立公園オフィシャルパートナーシップ」を締結し、ドライブパスの沿線に位置する国立公園の魅力発信することにより、地域間交流の促進や地域の活性化に取り組んでいます。また、2025年 国際博覧会(万博)

を大阪・関西へ誘致するため、誘致活動を支援する「オフィシャルパートナー」として、SA・PAにのぼり旗を設置してPRを行うなど、認知度の向上や気運の醸成に向けた誘致プロモーション活動に積極的に協力しています。



お国じまんカードラリーの展開 ▶ 自治体と連携して広域的な観光振興に取り組んでいます

2014年度から自治体と連携して、「お国じまんカードラリー」を実施しています。自治体を選んだ観光地やSAに設置したカードを集め

て、抽選で地域の名産が当たるキャンペーンで、2017年度は1万人を超えるお客さまにご参加いただきました。そのうち約半数のお客さまがこのカードラリーを目的としてご旅行されており、新たな観光需要を生

み出しています。2018年度も23府県と連携して当キャンペーンを実施しており、今後も西日本各地に広がる当社ネットワークを活かし、広域的な観光振興に取り組んでまいります。



お国じまんカードラリーキャンペーンパンフレット



GO! JIMAN カード



PRの様子

投資家・国民の皆さま

- 高速道路のネットワークバリューを創造し増大させます。
- 幅広い外部との交流により高速道路の未来の可能性を追求します。

公正、透明、健全な事業活動

透明性の高い経営の推進と着実な債務の返済

外部評価による透明性確保

NEXCO 西日本では事業の効率性・透明性の向上を図るため、社外の有識者からなる事業評価監視委員

会を設置しています。毎年1回開催し、当社の高速道路事業について第三者の立場から評価をいただき、今

後の事業計画に役立てています。委員会の開催状況及び議事要旨はウェブサイトで公開しています。

Web WEB 掲載情報
安定的な資金調達、投資家・金融機関の皆さまとの対話、地域住民の皆さまとの対話、現場見学会、積極的な情報発信

積極的な情報公開

ステークホルダーとの対話

社長による定例記者会見

当社グループの経営状況、建設・管理、関連事業等への取り組みに対する理解を深めていただくため、社長による記者会見を毎月開催し、情報発信に努めています。

また、投資家や金融機関の皆さまを対象に事業説明会を毎年開催し、経営層と直接対話いただく機会を設けています。



定例記者会見の様子

メディアを通じた情報発信

マスコミ向けプレスツアーの開催

新名神高速道路（高槻JCT・IC～神戸JCT）の開通に先駆け、マスコミ向けプレスツアーを開催しました。

プレスツアーでは、トンネル内に設置する高機能LED照明灯具により定速走行を支援する『ペースメー

カーライト』や、火災通報・非常電話に連動した『自走式ロボットカメラ』などの日本で初めて導入する新技術を公開しました。

また、冬季に実施する冬用タイヤ規制時のタイヤチェックを迅速化・

効率化する目的で試行導入する『冬用タイヤ自動判別システム』のデモンストレーションをマスコミ向けに公開し、テレビ・新聞等を通じ、高速道路の安全・安心に向けた取り組みを積極的に情報発信しました。



新名神開通前プレスツアー（トンネル）



新名神開通前プレスツアー（本線部）



冬用タイヤ自動判別システムデモンストレーション

お取引先

- 互いを尊重し、透明で公正な関係を構築します。
- 相互に協力してお客さまの満足度を高め、地域の発展に寄与し、社会に貢献します。

公正な取引関係

競争性・公正性・透明性の追求

基本的な考え方

「公共調達に係る契約に関する事務を適正かつ円滑に処理し、競争性・公正性・透明性を確保しつつ会社の経営の効率化を図る」という目的達

成のため、基本方針をもとに取り引きを行っています。

Web WEB 掲載情報
契約に関する情報公表、暴力団関係企業等の排除、地域物産展の開催、誤給油防止訓練、防犯講習会

契約の基本方針

1. 競争原理と経済性の追求
2. 品質の確保とさらなる向上
3. 契約機会の提供と拡大
4. 適正な契約相手方の選定
5. 法令等の遵守

発注事務に係る綱紀保持

発注者の綱紀保持に関する規程を制定し、発注事務に対する社会の信頼確保に向けて取り組んでいます。この規程には、社員が遵守すべき

事項として、情報の適切な管理、事業者との応接方法及びこれらに抵触した事実を確認した場合の通報義務等を定めています。

またこの取り組みについて、事業者の方々からの理解、協力を得るために、ウェブサイトや入札に関する指示書でお知らせしています。

SA・PA のテナント会社との協働

SA・PA のテナント会社との継続的な取り組み

SA・PA のテナント会社向け研修会・講習会を実施

お客さまに、安全に、そして安心してSA・PAを利用していただくことが、あらゆるサービスの前提です。

SA・PAのテナント会社を対象に、アレルギー知識の習得及びアレルギー表示ミスの撲滅を目的としたアレルギー講習会を開催しました。

さらに、中核サービスステーショ

ンとして指定されている西日本管内の全ガスステーションを対象に、防災意識の向上並びに災害時の燃料油安定供給体制の構築を目的とした災害対応研修会を実施しました。

お客さまに安心してSA・PAを利用していただけるよう、今後も継続して講習会等を実施する予定です。



アレルギー講習会の様子

SA・PA のテナント会社と地域企業のビジネス創出

ビジネスマッチングの開催

地域製品の販路拡大や新たな地域の逸品の開拓、地域の食材を活かした食事メニューの開発などを目的に、地域企業とSA・PAのテナント会社による商談会（ビジネスマッチング）を開催しています。2017年7月に株式会社西日本シティ銀行・

株式会社長崎銀行・株式会社豊和銀行と連携して実施した『九州ハイウェイ大商談会』では、計140社が参加し、延べ297商談のうち、45商談が成約に至りました。この取り組みにより、地域社会の活性化に貢献してまいります。



ビジネスマッチングの様子

グループ社員

- 自己と会社の持つ潜在能力やモチベーションを発揮する機会を提供します。
- 高速道路の設計から保守に至る一貫した総合技術グループになります。

人材の育成

人材育成の考え方

NEXCO 西日本グループの使命を担っているグループ社員一人ひとりの成長を支援します

当社グループでは、自律型人材の育成や自己変革組織を実現するため、「社員の成長、人材育成」「リーダーシップ・マネジメント力強化」「組織力・現場力強化」の3つを柱とした人事制度の構築に取り組んで

います。若年層のうちは、幅広く業務の全般を学び、OJT※を通じて自ら目的意識を持って考え行動する「自律型人材」への成長を促すとともに、グループ理念である「高速道路の安全・

安心を最優先に、お客さまの満足度を高める」ため、グループ会社間における人事交流を実施し、実践力を備えた人材の育成に努めています。

※ OJT(On-the-Job Training)：職場内において、管理監督者の責任のもとで行われる教育訓練全般。

ダイバーシティの推進

ダイバーシティ推進の考え方

NEXCO 西日本では、『違いを尊重し、個々が活躍し、進化し続けるチームへ』というビジョンを策定し、一人ひとりの社員がより活躍できる組織作りを行っています

様々な違いを持った社員一人ひとりが自律・成長することにより、会社を取り巻く様々な環境の変化にし

なやかに対応できる組織を作り、そのパフォーマンスを最大化させることを目的とし、経営課題として、「社

員の意識醸成」「活躍を後押しするしくみや制度の構築」の両面から長期的、継続的に取り組んでいます。

仕事と家庭の両立支援

ワーク・ライフ・インテグレーションの実現に向けた環境整備に取り組んでいます

「ワーク・ライフ・インテグレーション」とは、会社での仕事（ワーク）と個人の生活（ライフ）を柔軟かつ高次元に統合（インテグレート）することで、生産性や成長の拡大を実現すると共に、生活の質を上げ、充足感と幸福感を得ることをめざすものです。

「ワーク・ライフ・インテグレーション」の実現に向けて、仕事と家庭の両立を支援する取り組みを進めています。また、ボランティア休暇などの特別休暇や、リフレッシュ休暇、メリハリ休暇、メモリアル休暇などの年休取得促進制度などを導入し、社員が仕事も家庭も充実させ、両者の相乗効果でより活躍できるよう、制度の充実や環境整備に取り組んでいます。

健康診査等の受診	妊娠中または出産後における保健指導及び健康診査を受けるときの勤務免除
通勤緩和	母体又は胎児の健康保持への影響が認められるとき、1日につき1時間までの勤務免除（オフピーク通勤）
産前産後休暇	出産予定日の6週（多胎14週）間前から、出産後8週（例外により6週）間を経過する日までの間の特別休暇
配偶者出産休暇	配偶者が出産する際の3日間の特別休暇
子の養育休暇	出生した子または小学校就学始期に達するまでの子を養育するための5日間の特別休暇
育児休業	子が3歳になる前日までの休業（開始から1週間は有給）
部分休業（短時間勤務）	3歳までの子を養育するとき、1日最大2時間までの休業（短時間勤務）
子の看護休暇	小学校就学始期までの子を看護するための5日間の休暇（子が2人以上の場合は10日間）
育児時間	1歳までの子を養育するために1日2回、1回につき30分以内の勤務免除
両立支援面談	妊娠・出産・育児などのライフイベントと仕事を両立しながら活躍し続けることを支援するための面談を実施
介護休業	要介護者の介護のため、通算して184日以内の休業
介護短時間勤務	要介護者の介護のため、始業時または終業時において1日最大4時間までの時間単位休業
介護休暇	要介護者の介護のため、毎年5日以内の特別休暇（対象家族が2人以上の場合は、毎年10日以内）

仕事と家庭の両立を支援する制度

WEB 掲載情報

キャリアマネジメントの取り組み、資格取得の支援、採用選考、研修制度、安心して働ける職場環境づくり など

働き方改革

働き方改革の考え方

働き方改革を通じて生産性を向上させるべく、会社と社員が一体となって取り組んでいます

社員がイキイキと健康的に能力を発揮できる環境を整えることは、企業にとって重要な課題です。当社の使命は高速道路の安全・安心の実現ですが、それを実現する社員の健康と安全を守

ることも会社の重要な責務です。そこで、柔軟な勤務体系の導入や業務の効率化による時間外労働の削減、ダイバーシティの推進などにより、社員にとって働きやすい職場環境を実現

するとともに、社員一人ひとりが「決められた時間内でどうすれば効率的に業務を遂行できるのか」という目標を持ち、社員にとって働きやすい職場環境づくりを推進していきます。

グループ会社の取り組み

西日本高速道路エンジニアリング関西(株) ▶ 女性技術者会議を開催しています

当社グループで主に点検・管理を実施しているエンジニアリング系会社では、女性技術者ネットワークと総合的な技術力強化に向け「女性技術者会議」を開催しています。2017年度は6社24名が参加し、各社の女性活躍に関する取り組み内容の紹介や、事前に収集したアンケート結果を基に「問題提示→解決

策考案→全体発表」と課題解決型のグループ討議を行いました。今後、女性技術者がより活躍していく環境にするために、女性技術者から意識改革を行い、女性が活躍することによって社員全員が働きやすい「より良い会社」作りを進めていきたいと考えています。



グループ討議の様子

西日本高速道路メンテナンス中国(株) ▶ 清掃員の安全確保に取り組んでいます

西日本高速道路メンテナンス中国(株)では、SA・PAで働く清掃員のヘルメットに風船を取り付けて作業を行っています。

これは、駐車場清掃作業の際、清掃員が作業をしていることをお客さまにお知らせすることで、車両と作業員が接触する事故を防止する目的で行って

います。当初は恥ずかしいという声もありましたが、今では珍しいとお客さまから一緒に写真を撮って欲しいという声もいただきます。

現場で働く清掃員の更なる安全確保に向けて、これからも改良を重ねながら業務改善に取り組んでいきます。



SA・PA 清掃作業の様子

西日本高速道路エンジニアリング四国(株) ▶ 業務の効率化に取り組んでいます

西日本高速道路エンジニアリング四国(株)では、冬用タイヤ規制の省力化・効率化、渋滞時間短縮によるサービス向上を目的として、「冬用タイヤ自動判別システム」の開発に取り組んでいます。

冬用タイヤの確認は、今までは作業員の目で1台1台確認を行っていましたが、多大な時間を要し、時に

は確認待ちの渋滞が発生することがありました。そこで、カメラの画像処理技術により、昼夜天候にかかわらず冬用タイヤかどうかを自動判別するシステムを開発しました。

2017年度は試行導入を行い、確認作業の負担が軽減される効果があったことから、今後は本格導入に向けて、動作の安定性、判別の高精

度化を実現し、渋滞緩和と確認作業の負担軽減につなげていきます。



冬用タイヤ自動判別の様子



環境保全

事業活動による環境負荷の低減対策を積極的に推進しています。

環境経営の推進

環境マネジメントの推進

「環境基本計画」を策定して活動を推進しています

NEXCO西日本グループは2008年に「環境方針」を制定し、2011年からは5か年の中期計画として「環境基本計画」を策定して、環境保全に取り組んでいます。

環境基本計画は、環境方針の柱で

ある「低炭素社会の実現」「循環型社会の形成」「自然と共生する社会の推進」の3テーマで構成し、環境管理会議において、毎年度、計画達成に向けた具体目標（アクションプラン）を立て、実績を評価しています。



高松自動車道 府中湖PAの土捨場跡地を利用して整備したピオトップ

環境方針

西日本高速道路株式会社は、事業活動が環境に及ぼす影響を真摯に捉え、高速道路事業者としてまた社会の一員として、社員の一人ひとりが、環境の保全・改善に積極的に取り組み、持続可能な社会の形成を目指します。

取り組みの実施にあたっては、環境側面に関係する法規制等を遵守し、環境目的・目標を定めるとともに、それらを定期的に

見直すことで継続的に改善します。(2008年制定、2011年一部改定)

低炭素社会の実現に取り組めます
未来を担う世代が生活の豊かさを実感できるように、道路空間を活用した省エネルギー、創エネルギー及び緑化の推進に取り組めます。

循環型社会の形成に取り組めます
天然資源の消費を抑制し、環境への負荷を低減するため、廃

棄物等の発生抑制（リデュース）、循環資源の再利用（リユース）及び再生利用（リサイクル）に取り組めます。

自然と共生する社会の推進に取り組めます

人と生きものが豊かに暮らせる社会を目指し、自然環境や人々の生活環境の保全と創出に取り組めます。

中期計画「環境基本計画2020」に基づくアクションプラン2017の取り組み

2016年度から2020年度を対象に「環境基本計画2020」を策定、その計画に基づく年度目標「環境アクションプラン2017」を設定し、グループ一体となって、環境保全・改善に積極的に取り組みました。

低炭素社会の実現

高速道路の自動車交通によって発生する二酸化炭素排出量を削減するための渋滞対策や、事業活動に伴う電気使用量の削減、太陽光発電の導入、及び樹林化などを実施しています。

循環型社会の形成

天然資源の消費を抑制し、事業活動に伴って発生する廃棄物の3R（Reduce[削減]・Reuse[再利用]・Recycle[再資源化]）を推進するとともに、環境負荷の少ない製品・資材を調達するグリーン調達に取り組んでいます。

自然と共生する社会の推進

動物侵入防止柵を設置するなど、野生動植物や自然環境の保全対策を反映させた道路整備を進めています。また、沿道地域の静穏な生活環境を守るため、遮音壁の新設・改良などを推進しています。

WEB掲載情報

環境方針に基づく3つのテーマに関する具体的な実施事例

「環境基本計画2020」及び環境アクションプラン2017の実績

実行目標計画の取り組み項目	活動内容	指標	単位	アクションプラン2017				
				目標	実績			
低炭素社会の実現	円滑な交通の確保	高速道路ネットワークの整備	新規高速道路のネットワーク整備を実施する	開通延長	km	44km	44km	
	省エネルギーの推進	電気使用量の削減	オフィス活動に要する電気使用量を削減する	電気使用量	kWh/m ²	2015年度実績より2%以上削減する(2015年度 153kWh/m ²)	7.2%増加(164kWh/m ²)	
			道路施設の維持管理に要する電気使用量を削減する	電気使用量	千kWh/km	2016年度実績より1%以上削減する(2016年度 71.5千kWh/km)	0.8%削減(70.9千kWh/km)	
		ガス使用量の削減	オフィス活動に要するガス使用量を抑制する	ガス使用量(都市ガス+LPGガス)	m ³ /m ²	2015年度実績より抑制する(2015年度 0.4m ³ /m ²)	13%削減(0.35m ³ /m ²)	
	太陽光発電の導入の推進	新設料金所等に太陽光発電を設置する	導入量	kW	160kW	160kW		
	二酸化炭素吸収源対策	道路緑化等によるCO ₂ の固定	盛土のり面等の樹林化整備を推進する	整備面積	ha	94ha	112ha	
技術開発	新技術・新材料の開発	再生アスファルト混合物の適用性を検討する	—	—	再生アスファルト混合物(市中一般再生骨材、鉄鋼スラグ)の適用性を検討し、一般再生材の設計要領化の可否を判断する	・配合率および混合物の配合基準に関する室内試験を実施 ・技術基準での規定方法を検討		
		次世代車両用スタンド整備に向けた新エネルギー補充用技術を開発する	—	—	次世代自動車の社会動向を踏まえた、適時・適正なインフラを整備する	EV急速充電器を計2基整備 NEXCO西日本管内の休憩施設306箇所のうち132箇所に整備完了		
循環型社会の形成	環境に配慮した製品・資材等の調達の推進	廃棄物の3R(リデュース、リユース、リサイクルの推進)	グリーン調達の推進	事務用品における特定調達物品等の調達率100%を目指す	調達率	%	特定調達物品等の調達率100%を目指す	特定調達物品等の調達率100%を達成(規格等により適合商品がない場合を除く)
			一般廃棄物(資源となるものを除く)の排出量を減量する	—	kg	一般廃棄物の排出量を抑制し、分別回収に努める	一般廃棄物の排出量を抑制し、分別回収に努めた	
			植物系廃棄物(草刈等)の再資源化を推進する	再資源化率	%	95%以上を目指す	96.4%	
			建設発生土の再利用を推進する	再利用率	%	80%以上を目指す	96.5%	
			アスファルトコンクリート塊の再資源化を推進する	再資源化率	%	99%以上を目指す	100%	
			コンクリート塊の再資源化を推進する	再資源化率	%	99%以上を目指す	100%	
			休憩施設での発生ゴミの再資源化を推進する(再資源可能なもの)	再資源化率	%	100%を目指す	100%	
			建設発生木材の再資源化を推進する	再資源化率	%	95%以上を目指す	96.3%	
			建設汚泥の再資源化を推進する	再資源化率	%	90%以上を目指す	95.0%	
自然と共生する社会の推進	自然環境の保全	エコロードの推進	動物侵入防止対策を推進する(保全)	設置・改良箇所	箇所	96箇所	99箇所	
			動物侵入防止対策を推進する(建設)	設置延長	km	66km	67.6km	
			地域性苗木を設置する	設置本数	本	約60,000本	約40,000本	
生活環境の保全	道路交通騒音対策	高機能舗装の敷設を推進する	敷設延長	車線・km	150車線・km	117車線・km		
		遮音壁の設置を推進する	設置延長	km	20km	20km		



社会貢献

地域の安全や安心、環境保全や活性化支援に取り組んでいます。

社会貢献活動

NEXCO西日本グループでは、「事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します」というCSR活動方針のもと、事業以外においては、

グループのノウハウを活かすべく事業活動に親和性の高い分野で活動することを基本としています。またボランティアや地域連携イベントへの

参画については、社員本人やグループ会社の主体性を尊重しており、「安全」「環境」「地域貢献」の各分野で取り組んでいます。

「安全」への取り組み

交通安全の啓発活動

地域の高齢者や子ども向けの交通安全教室を開催しています

高齢者や子どもが地域で安心して暮らせるよう、地域の警察や交通安全協議会、市町村等と連携し、交通安全教室や講習会を行っています。

シルバー講習会では特に高速道路での逆走事故防止や緊急時の対処法などを中心に、幼稚園での交通安全教室で

はキャラクターや紙芝居を使うなどわかりやすさを心がけながら、シートベルト着用の重要性や横断歩道での安全確認の仕方、飛び出し事故の怖さなどについてお伝えしています。

今後も地域の皆さまが安全に暮らせるよう各地域で開催していきます。



交通安全教室の様子

関係機関への講習会の実施

ノウハウを活かした講習会に取り組んでいます

当社グループのパトロール会社では、関係機関に対し交通規制に関する講習会を実施しています。

2017年、西日本高速道路パトロール関西(株)では兵庫県警・京都府警に続き、大阪府警からの要請を受け、道路上における受傷事故防止対策について、各署の交通

課に勤務する警察官を対象に、道路上での安全確保に関する講義を行い、情報共有を図るとともに、机上実技では規制器材や発炎筒の使用法、規制時の赤旗の振り方など実技を交えながら講義を行いました。当社で分析した高速道路特有の事故や現象等に真剣に耳を

傾け、実技にも真剣に取り組んでいただきました。

今後もこうした業務でのノウハウを活かした取り組みを継続し、地域社会へ貢献していきます。



実技指導の様子

「環境」への取り組み

各種環境保全活動への参加

アドプト・ロード・吹田ジャンクションに参加しています

当社グループでは、地域に愛されるきれいな道路環境づくりや地域の環境美化を目的として、「アドプト・ロード・吹田ジャンクション」に参

加しています。

アドプト・ロードとは、私たちが身近に利用する道路を自分たちの子供のように育てていくというコンセ

プトのもと、吹田ジャンクション周辺道路の清掃などの美化活動を継続して実施していくものです。

当社グループでは、吹田ジャンク

WEB掲載情報

つなぎの森等の環境保全活動、学生や子どもへの教育支援、ボランティアを通じた地域貢献

ション周辺に限らず西日本の各地において環境保全活動に社員が自主的に参加しており、2017年度はのべ10,800人が参加しました。

これからも地域を愛し、地域とともに生きる企業グループを目指していきます。

「地域貢献」への取り組み

資機材やノウハウを活かした支援活動

相互協力協定に基づく除雪支援活動を実施しました

2018年2月5日から8日にかけて、北陸地方西部の福井県嶺北地方・石川県加賀地方を中心に記録的な大雪となり、石川県と福井県を結ぶ国道8号では一時約1,500台の車が立ち往生するなど、大規模な交通障害が発生しました。

西日本高速道路メンテナンス関西

(株)では、当社と近畿地方整備局が締結している相互協力協定に基づき、除雪作業の支援要請を受け、2月8日～10日の3日間にわたって、作業員4名、作業車2台を出動させ、国道8号を中心にのべ74時間除雪作業の支援を行いました。

今後も災害などの有事の際には、



アドプト・ロード・吹田ジャンクションに参加したボランティアスタッフ

学生や地域の子どものための教育支援

大学生への講義を実施しています

西日本高速道路エンジニアリング中国(株)では、広島工業大学都市デザイン工学科における年間15回の「道路工学」講座を実施しています。道路構造、景観、環境など道路に関する様々な分野の専門的な内容についての講義のほか、土工、橋梁、トン

ネルなどの建設現場等の見学も行っており、この講座への取り組みは30年以上にわたって実施しています。

2017年度におけるグループ全体での同様の取り組みは8大学、のべ42回にのぼり、今後もこうした学生への教育支援を継続していく

ことで、地域や社会に貢献していきます。



除雪支援活動の様子



スマート IC 現場見学の様子

地域イベントへの参加やボランティアなどを通じた地域貢献

地域社会や住民と一体となった地域貢献活動を継続しています

西日本高速道路パトロール関西(株)では、地域のために活動し、地域の方々

に愛される企業を目指して、大阪マラソンでのボランティアに参加しています。

大阪マラソンは約3万人が参加する日本でも有数の市民マラソンで、2017年度は大会前日のランナー受付や、ゼッケン配布のボランティアとして活動しました。ランナー受付では職業柄、極力受付待ちの渋滞を

発生させないよう、丁寧に対応しつつも簡潔明瞭な説明に徹するなど工夫しながら実施しています。

他にもグループ各社では、グループ発足当初から、地元の福祉施設や幼稚園で行われる季節の行事への参加、料金所で育てた花の鉢の寄付など、季節や地域行事にあわせたボランティアを実施しています。

今後も地元の方々との交流を通じ

て、地域の活性化に貢献できるような取り組みを継続してまいります。



ランナー受付の様子












CSRの重要課題(マテリアリティ)と取り組み状況

NEXCO西日本グループでは、「事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します」というCSR活動方針のもと、ステークホルダーとの対話で得られたご意見を参考にしながら、CSRの重要課題を特定しています。また、2030年に向けて世界的な優先課題やあるべき姿を明らかにしている「持続可能な開発目標(SDGs)」に、当社グループのマテリアリティを中心とする関連した取り組みを通じて貢献することを目指しています。

持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)







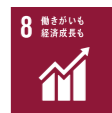

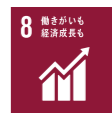

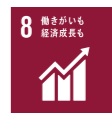











2015年9月、国連サミットにて「持続可能な開発目標(SDGs)」が全会一致で採択されました。2030年までに達成するべく、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動等に関する17のゴールが宣言されています。



重要課題	ステークホルダー参画の機会(参加者)	重要である理由	KPI(マネジメントアプローチ)		KPI(マネジメントアプローチ)				関連ページ
			管理のポイント・指標	目標	実績	次年度の目標	集計範囲	関連するSDGs	
 お客さま	交通安全の取り組み	高速道路での交通事故は、死傷事故など重大な事故につながります。	死傷事故率※1(自動車走行車両1億台kmあたりの死傷事故件数)	6.8件/億台km	6.6件/億台km	後日、ウェブサイトに掲載	NEXCO西日本事業エリアの全国路線網		25ページ
			車限令違反車両取締台数(高速道路上で実施した車限令違反車両取締における措置命令台数)	—	896台	—			30ページ
			逆走事案件数※1(交通事故または車両確保に至った逆走事案件の件数)	—	74件	—			25ページ
			人等の立入事案件数(歩行者、自転車、原動機付自転車等が高速道路に立入り、保護した事案件の件数)	—	1,014件	—			—
	快適な高速道路空間の提供	高速道路の円滑な交通を24時間365日確保することによって、国民生活を豊かにし、経済活動を支えることが、当社の責務です。	顧客満足度(CS調査で把握する維持管理に関するお客さまの満足度(5段階評価))	3.6ポイント	3.6ポイント	後日、ウェブサイトに掲載			26ページ
			年間利用台数	—	1,011百万台	—			WEB
			通行止め時間※1(単位営業延長(上下線別)あたりの雨、雪、事故、工事等に伴う年平均通行止め時間)	—	57時間	—			WEB
			本線渋滞損失時間※1(渋滞が発生することによるお客さまの年間損失時間)	—	638万台・時	—			WEB
			路上工事による交通規制時間(道路1kmあたりの路上作業に伴う交通規制時間)	—	126時間/km	—			WEB
			SA・PAインフォメーション(高速道路利用者)	—	—	—			—
SA・PAのお客さま満足施設への変革	高速道路は基本的なインフラであり、誰もが利用しやすい施設であることが求められます。	Wi-Fiサービスの提供箇所数※3	—	196カ所	—		28ページ		
		SA・PAインフォメーションの日本政府観光局(JNTO)の外国人観光案内所認定数(カテゴリー1)※3	—	67カ所	—		28ページ		
 社会	社会基盤である高速道路の整備と長期保全	高速道路ネットワークは、国民生活を豊かにし、経済活動を支える、基礎的な社会資本です。また、輸送コストの削減や交通事故の減少にも貢献しています。	新規開通路線延長	46km	46km	—	NEXCO西日本事業エリア	 	29ページ
			スマートIC新規設置箇所数	6カ所	6カ所	4カ所			30ページ
	災害対応力の強化	管理する道路の多くが建設から30年以上を経過し、補修を必要とする道路構造物が増加しています。	快道走行路面率(快適に走行できる舗装路面の車線延長)	98%	98%	後日、ウェブサイトに掲載			WEB
			要補修橋梁数	—	655橋	—			19ページ
			南海トラフ地震被害に備えての資機材の新規備蓄箇所	4カ所 累計 232カ所	— 累計 228カ所	4カ所 累計 232カ所			WEB
	高速道路を通じた地域活性化	人口減少時代を迎え、沿線地域の活性化への貢献が求められています。	地域物産展実施エリア※2	—	70カ所	—		 	WEB
			地元が販売・イベント等によりSA・PAを利用した日数	—	のべ2,527日	—			28ページ
			ウェルカムゲート(一般道からSA・PAに立ち寄れるゲート)新規設置数	—	3カ所 (累計70カ所)	—			34ページ
 投資家・国民の皆さま	透明性の高い経営と着実な債務の返済	国民の資産である高速道路を管理する事業者として、透明性の高い経営が求められています。また、高速道路機構の債務返済を着実なものにしていくため、経営の効率化が求められています。	高速道路機構の債務削減	8ページの「高速道路機構の債務残高」をご覧ください。			(旧道路関係4公団)		8ページ
			社長定例会見(毎月開催)	—	11回	—	NEXCO西日本		35ページ
	facebookを活用した広報展開(NEXCO西日本公式facebook登録者数の増)	登録者数 15,000人	登録者数 18,937人	登録者数 25,000人	WEB				
	積極的な情報公開	ステークホルダーから理解・信頼・期待される企業となるために、積極的な情報公開とコミュニケーション活動が重要だと考えています。	CSR報告書での企業活動報告	1回	1回	1回	NEXCO西日本グループ	50ページ	

※1 集計期間：2017年1月1日～12月31日
 ※2 西日本高速道路サービス・ホールディングス(株)が主催するもの
 ※3 2018年5月末実績

CSRの重要課題(マテリアリティ)と取り組み状況

重要課題	ステークホルダー 参画の機会(参加者)	重要である理由	KPI(マネジメントアプローチ)		KPI(マネジメントアプローチ)				関連ページ	
			管理のポイント・指標	目標	実績	次年度の目標	集計範囲	関連するSDGs		
 お取引先	● 公正な取引関係 ● SA・PAのテナント会社との協働	国民の財産である高速道路の建設・管理を担う会社として、公共調達に係る契約の透明性の確保が求められています。	入札監視委員会の実施回数	—	8回	—	NEXCO西日本		WEB	
			安全・安心にかかる講習等	—	年2回	—	飲食物販テナント事業者		36ページ	
			誤給油防止訓練	—	年1回	—	元売テナント事業者等		36ページ	
 グループ社員	● 「安全・安心、信頼され成長する企業グループ」を担う人材の育成 ● キャリア相談窓口(NEXCO西日本社員) ● 経営懇談会、労使協議会(NEXCO西日本労働組合員) ● 外部講師による研修(グループ社員)	中期経営計画に定めた「安全・安心、信頼され成長する企業グループ」を実現するため、一人ひとりが仕事を通じて自律的に成長していける人材育成と、組織・会社の自己変革が重要だと考えています。	階層・職種別研修	—	のべ710回	—	NEXCO西日本グループ	 	WEB	
			資格取得支援制度の利用者数	—	192名	—	NEXCO西日本	 	WEB	
			女性管理職者比率	—	8.8%	—	NEXCO西日本グループ	 	WEB	
 環境保全	● 低炭素社会の実現 ● 各種の対話の機会を通じた環境コミュニケーション(お客さま、地域住民、従業員、専門家)	高速道路では、自動車から大量のCO ₂ が排出されるため、道路運営全体で、その排出量削減が求められます。	● 環境アクションプラン ● 省エネルギー活動	道路施設の維持管理に要する電気使用量	2016年度実績より1%以上削減する(2016年度71.5千kWh/km)	0.8%削減	2015年度実績より4.3%以上削減する(2015年度73.9千kWh/km)	NEXCO西日本事業エリア	 	40ページ
			新設料金所等に太陽光発電を設置する	160kW	160kW	—	NEXCO西日本事業エリア	40ページ		
			次世代車両用スタンド整備に向けた新エネルギー補充用技術を開発する	次世代自動車の社会動向を踏まえた、適時・適正なインフラを整備する	EV急速充電器を計2基整備 NEXCO西日本管内の休憩施設306箇所のうち132箇所に整備完了	次世代自動車の社会動向を踏まえた、適時・適正なインフラの整備、インフラ技術を検討する	NEXCO西日本事業エリアのSA・PA		40ページ	
			事務用品における特定調達物品等の調達率	100%	100% (規格等により適合商品がない場合を除く)	100%	NEXCO西日本	40ページ		
			● 環境アクションプラン ● 環境物品等の調達の推進	植物系廃棄物(草刈等)の再資源化率	95%以上	96.4%	95%以上	NEXCO西日本事業エリア		40ページ
建設発生土の再利用率	80%以上	96.5%	80%以上	40ページ						
アスファルトコンクリート塊の再資源化率	99%以上	100%	99%以上	40ページ						
 環境保全	● 自然と共生する社会の推進 ● 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民) ● 鶯殿ヨシ原の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民) その他、必要に応じて外部委員会を設置	高速道路の建設では、沿道地域の自然環境に影響を及ぼすため、その影響の緩和が重要になります。また、沿道地域の生活環境を守るため、道路交通による騒音の低減が求められています。	● 環境アクションプラン ● エコロード(自然に優しい道路づくり)の推進 ● 周辺の生活環境への影響を減らす道路づくり	動物侵入防止対策の設置・改良箇所	96箇所	99箇所	88箇所	NEXCO西日本事業エリア	 	40ページ
			遮音壁の設置(設置延長)	20km	20km	—	NEXCO西日本事業エリア	40ページ		
 社会貢献	● 「安全」「環境」「地域貢献」の取り組み ● 高速道路交通警察隊(当社事業エリアの各府県) ● 高速道路安全協議会(当社事業エリアの各府県)	社会インフラを管理する公共性の高い企業として、地域社会への貢献が求められています。	交通安全啓発活動	—	のべ142回	—	NEXCO西日本グループ	 	41ページ	
			職場周辺や各地域での清掃活動	—	のべ2,100回 10,800人	—	NEXCO西日本グループ		41ページ	
			つなぎの森活動	—	3カ所のべ6.7ha	—	NEXCO西日本管内実施箇所(全7カ所のべ100ha)		WEB	

連結損益計算書

(単位: 億円)

区分		2017年度	2016年度	増減
営業収益	高速道路事業	15,679	8,812	6,867
	料金収入	7,643	7,457	185
	道路資産完成高	8,002	1,324	6,677
	その他	34	29	4
	関連事業	533	540	▲7
	SA・PA事業	330	335	▲5
その他の事業	202	205	▲2	
計		16,213	9,352	6,860
営業費用	高速道路事業	15,691	8,784	6,907
	道路資産賃借料	5,511	5,332	178
	道路資産完成原価	8,002	1,324	6,677
	管理費用	2,177	2,126	50
	関連事業	472	473	▲1
	SA・PA事業	280	280	0
	その他の事業	192	193	▲1
	計		16,164	9,257
営業利益	高速道路事業	▲11	28	▲39
	関連事業(うちSA・PA事業)	60(49)	66(55)	▲6(▲5)
計		48	94	▲46
経常利益		73	114	▲40
当期純利益 ※1		230	159	70
厚生年金基金代行返上益関係を除く当期純利益 ※2		42	76	▲33

※1 「当期純利益」には、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。
 ※2 前期比較のため、厚生年金基金代行返上益関係を控除した当期純利益を記載しています。

主要な経営指標等の推移

回次		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
営業収益	(億円)	8,866	10,120	8,841	9,352	16,213
経常利益	(億円)	61	79	128	114	73
親会社株主に帰属する当期純利益	(億円)	34	30	73	159	230
純資産額	(億円)	1,593	1,614	1,567	1,798	1,990
総資産額	(億円)	9,295	9,517	11,758	14,385	11,708
1株当たり純資産額	(円)	1,675.73	1,699.19	1,648.61	1,891.16	2,093.11
1株当たり当期純利益金額	(円)	36.64	31.81	77.60	167.91	242.37
自己資本比率	(%)	17.1	17.0	13.3	12.5	17.0
自己資本利益率	(%)	2.1	1.9	4.6	9.5	12.2

高速道路事業トピックス

- 2017年度の当社管内の高速道路の通行台数は、前期比1.8%増の286万台/日となり、料金収入は、対前期185億円増の7,643億円となりました。
 - 営業費用のうち、高速道路機構に対する道路資産賃借料は、対前期178億円増の5,511億円となりました。
 - 管理費用は、雪氷対策費用(除雪費用等)の増加などにより、対前期50億円増の2,177億円となりました。
 - 以上のことなどから、高速道路事業の営業利益は、対前期39億円減の▲11億円となりました。
 - 道路資産完成高は、新名神高速道路(高槻JCT・IC～神戸JCT)の完成などがあり、対前期6,677億円増の8,002億円となりました。
- なお、道路建設にかかった経費と同額の債務を高速道路機構に引き渡すため、道路資産完成高は道路資産完成原価と同額となり、道路建設から利益や損失は発生しません。

関連事業トピックス

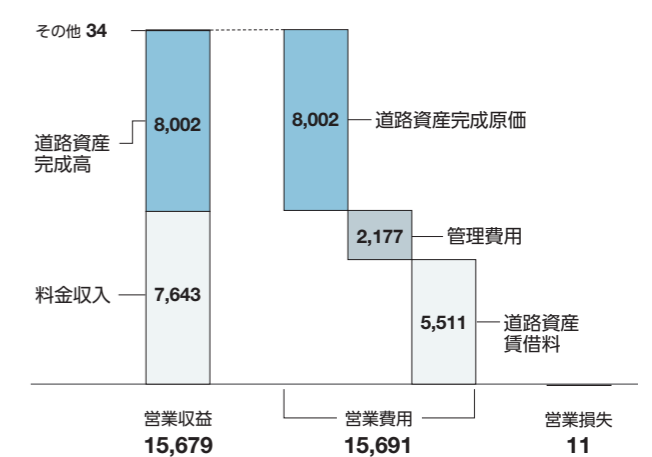
- SA・PA事業は、降雪による通行止めなどが影響し、収益減となったことなどにより、営業利益は対前期5億円減の49億円となりました。
- 関連事業全体の営業利益は、SA・PA事業の利益減が影響し、対前期6億円減の60億円となりました。

全事業の業績

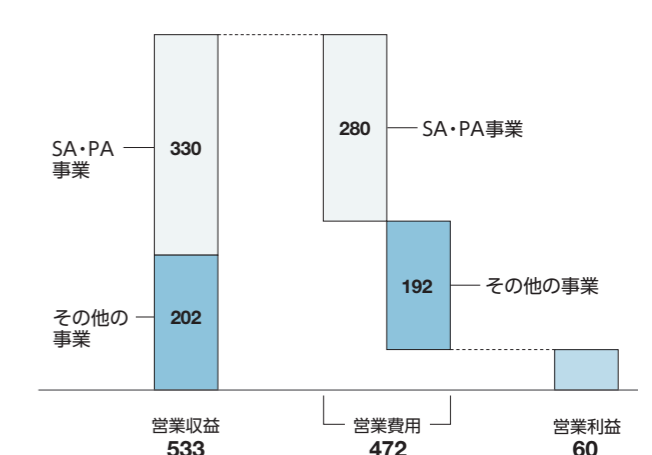
- 当期純利益は、厚生年金基金の代行返上※に伴う特別利益271億円及びそれに伴う法人税等調整額▲83億円を計上したことなどにより、対前期70億円増の230億円となりました。
- なお、これらの厚生年金基金代行返上益関係を除いた当期純利益は、対前期33億円減の42億円となります。

※当社が加入していた建設関係法人厚生年金基金は、厚生年金基金の代行部分について、2017年5月1日付で厚生労働大臣から過去返上の認可を受けました。

高速道路事業の損益 (単位: 億円)



関連事業の損益 (単位: 億円)



NEXCO 西日本グループ 税務ポリシー

NEXCO西日本グループは、グループ理念や行動憲章に基づき適正な納税をおこないます。また、社会基盤を支える高速道路会社として良好な財務体質を維持するとともに、社会貢献の一つとして社会的責任を果たします。われわれは、この税務ポリシーに基づき、公正性や透明性を確保し、適切な会計・税務管理を実施していきます。

1. 法令遵守

NEXCO西日本グループは、法人税法や消費税法等を常に遵守するとともに税法改正を適時適切に把握して適正な納税義務を果たします。

2. 税務コーポレートガバナンス

NEXCO西日本グループは、社内外の講習等を通じて社員の税務知識向上を目指すとともに、社内規程等に基づく適正な実務遂行により、税務コンプライアンスの充実に努めます。また、法令等に基づかない税務上の判断や節税、脱税はおこないません。

3. 税務当局との関係

NEXCO西日本グループは、税務リスクが懸念される取引について、顧問税理士等を交えた十分な検討をおこなうことでリスク回避に努め、税務当局との良好な関係を維持します。

また、税務当局からの情報開示要請等には適切に対応するとともに、税務的判断に見解の相違が生じた場合は真摯な対応で解消に努めます。



関西学院大学専門職大学院
経営戦略研究科 教授
山本 昭二様

NEXCO西日本グループのコミュニケーションレポート2018を読んでもとどろきながらの活動が、つづさに理解できるとともにどの様な点が大きな問題になっているのか、的確に示されている。高速道路は既に「造って提供する」から「使って価値を生む」という段階に進んでおり、最後の段階である「生活に根ざした価値共創」も垣間見えている。新しい路線の开通によって渋滞が解消されたことは素晴らしいことで、引き続き利便性を高める着実な努力が望まれる。また、防災対策や安全対策などの使い手にとって利用価値の高いサービスの提供も数多く触れられている。サービスエリアの拡充や九州北部豪雨への対応など、日本の高速道路のサービス水準の高さを示すものであり、利用者

にとっての利便性を保証している。また、本グループの保全技術がアメリカで採用され、インフラの維持に貢献していることは素晴らしい成果である。

また、共創価値の向上は数多くのサービスの基盤となるものであり、地域観光への貢献、サービスエリアの地域からのアクセスの確保など社会との繋がりを高めるための施策が多面的に実施されていることは大変心強い内容となっている。

高速道路から価値が生み出される一方で、その実現を阻むような事象も発生してきている。残念ながら2017年度も重大な事故が発生し一層の安全対策が望まれる事態となっている。熟練した作業員の確保の難しさや新たな工法の採用による習熟への時間の必要性など改善すべきことは多いだろうが、レポートでも取り上げられるようにグループを挙げて取り組みを続けて欲しい。

最後に、逆走問題のように高速道路のハードウェアの改善だけでは解決が難しい問題も発生してきている。これを自動運転の普及も含めたドライバーの変化と捉え、とより価値を高めるための投資対象として考えることも可能になるのではないだろうか。是非、ドライバーの意識変革を含めた積極的な対応を望みたい。

第三者意見をうけて



取締役
常務執行役員
芝村 善治

今年度の第三者意見は、前年度に引き続き、関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授の山本昭二様からいただきました。貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

当社グループは24時間365日、高速道路の機能・サービスを間断なく提供する使命を担い、各事業を遂行しています。そのうえで、山本様のご意見のとおり、地域観光への貢献、サービスエリアの地域からのアクセスの確保など、社会との繋がりを高める「共創価値の向上」の施策を実施しながら、社会基盤である高速道路を通じて社会の持続的な発展に貢献することを目指しております。

また、近年の建設現場での重大事故を踏まえた工事安全性向上への取り組みについては、ゼロ災害を目指し受発注者一体となって安全対策を進めるとともに、九州北部豪雨をはじめとした自然災害における対応については、災害対応計画を継続的に見直し、防災訓練の中でより実効性のある体制の構築に取り組むなど、高速道路の早期復旧を目指した対策を実施してまいります。一方、逆走対策のように高速道路のハードウェアの改善だけでは解決が難しい問題については、一般企業から公募した技術を取り入れながら、関係機関と連携して対策に取り組んでまいります。これらの取り組みについて、当社グループに対する理解を深めていただくため、継続して情報発信に努めてまいります。

今後もインフラを管理する企業グループとして環境の変化に対応し、地域と連携した取り組みを通じて高速道路ネットワークの価値を最大化させ、持続的に成長してまいります。

頂戴したご提言を踏まえ、コミュニケーションレポートの更なる充実を活かしていくとともに、NEXCO西日本グループ一体となった事業への取り組みに活用させていただきたいと存じます。

NEXCO西日本グループでは、ステークホルダーの皆さまに当社グループのCSRに対する考え方や取り組みをわかりやすくお伝えするとともに、ご意見・ご期待を把握するためのコミュニケーションツールとして、「コミュニケーションレポート」を編集・発行しています。

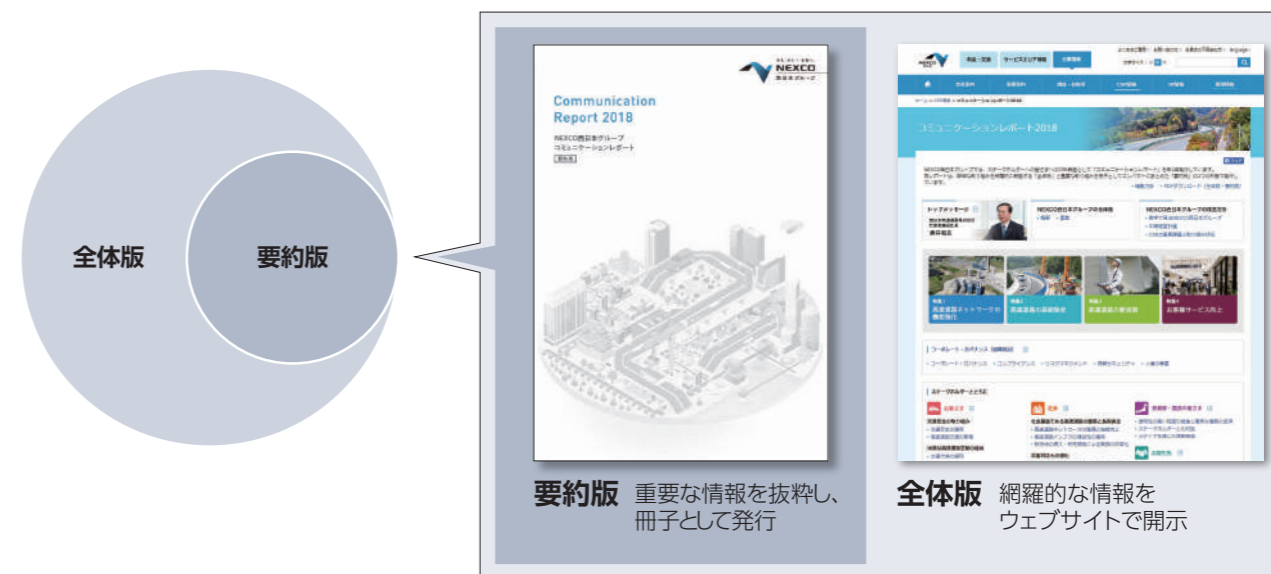
レポートは「全体版」と「要約版」の2つのメディアで発行しており、詳細な取り組みを網羅的に報告する「全体版」では、ウェブサイトに掲載することで、ステークホルダーの皆さまが情報にアクセスしやすいように工夫しています。また、重要な取り組みを冊子にコンパクトにまとめた「要約版」では、ビジュアルを多用することで、親しみやすく手に取りやすいレポートを目指しました。

報告対象期間：
2017年4月1日～2018年3月31日
(一部2018年4月1日以降の内容も含みます)

発行時期：
2018年7月(前回:2017年7月、次回予定:2019年7月)

- 参考にしたガイドライン等：**
- 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
 - GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第4版」(持続可能な社会の実現に向けて、組織の目標と実績について報告するための国際的ガイドライン)
 - (財)日本規格協会「ISO26000:2010」(企業を含むあらゆる種類の組織の社会的責任に関する包括的ガイダンス)

「コミュニケーションレポート2018」各メディアの情報内容



レポートへの主なご意見と改善のポイント Q & A (「コミュニケーションレポート2017」読者アンケートより)

- | | | |
|---|---|--|
| <p>Q 視覚的に楽しそうな記事にして、高速道路事業の硬いイメージがある専門的な説明をわかりやすくして欲しい。</p> | <p>Q サービスエリアなど、地域とのタイアップや施設の充実、顧客サービスにかかわる情報を知りたい。</p> | <p>Q 災害対策や安全確保のための努力が伝わり良かった。今後も詳しく聞きたい。</p> |
| <p>A イラストと数字で取り組み状況をわかりやすく誌面に取り入れ、お客さまが興味を持っていただける工夫をしました。</p> | <p>A 特集ページにおいて、NEXCO西日本ならではの取り組みの現状をお伝えするよう、タイムリーな話題を取り上げています。</p> | <p>A 災害に強い道路を目指し、耐震補強や高速道路の長期保全、インフラ整備にも触れ、事業全体の理解を深めていただける内容に改善しました。</p> |